令和6年 第1回(定例)桂川町議会会議録(第3日)

令和6年3月12日(火曜日)

議事日程(第3号)

令和6年3月12日 午前10時00分開議

- 日程第1 一般質問
- 日程第2 議案第11号 令和5年度桂川町一般会計補正予算(第5号)
- 日程第3 議案第12号 令和6年度桂川町一般会計予算
- 日程第4 議案第13号 令和6年度桂川町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第5 議案第14号 令和6年度桂川町土地取得特別会計予算
- 日程第6 議案第15号 令和6年度桂川町国民健康保険特別会計予算
- 日程第7 議案第16号 令和6年度桂川町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第8 議案第17号 令和6年度桂川町水道事業会計予算
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 一般質問
- 日程第2 議案第11号 令和5年度桂川町一般会計補正予算(第5号)
- 日程第3 議案第12号 令和6年度桂川町一般会計予算
- 日程第4 議案第13号 令和6年度桂川町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 日程第5 議案第14号 令和6年度桂川町土地取得特別会計予算
- 日程第6 議案第15号 令和6年度桂川町国民健康保険特別会計予算
- 日程第7 議案第16号 令和6年度桂川町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第8 議案第17号 令和6年度桂川町水道事業会計予算
-

出席議員(10名)

1番 林 英明君	2番 下川 康弘君
3番 柴田 正彦君	4番 杉村 明彦君
5番 大塚 和佳君	6番 吉川紀代子君
7番 北原 裕丈君	8番 竹本 慶吉君
9番 原中 政廣君	10番 青柳 久善君
-

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長 神崎 博和君

説明のため出席した者の職氏名

町長	井上 利一君	副町長	山邊 久長君
教育長	大庭 公正君	総務課長	横山 由枝君
企画財政課長	小平 知仁君	建設事業課長	原中 康君
建設事業課長補佐	横山 龍一君	住民課長	山本 博君
会計管理者	北原 義識君	税務課長	古野 博文君
保険環境課長	永松 俊英君	健康福祉課長	川野 寛明君
産業振興課長	小金丸卓哉君	子育て支援課長	江藤 栄次君
水道課長	秦 俊一君	学校教育課長	平井登志子君
社会教育課長	原田 紀昭君	王塚装飾古墳館長	尾園 晃君
社会教育課長補佐	吉貝 英貴君		

午前10時00分開議

○議長（林 英明君） おはようございます。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（林 英明君） これより一般質問を行います。

順番に発言を許します。3番、柴田正彦君。

○議員（3番 柴田 正彦君） おはようございます。柴田正彦です。22回目の一般質問を始めます。

今回の一般質問は10点。これまで検討するなどと言われたことのその後について、検討すると言われていたことがどうなっているかを確認していきます。

2、中長期的な課題について。これは町長が1月、この言葉を口にされました。どういうイ

メージを持たれているのか、どういう考えを持たれているのかお聞きしたいです。

3、学校建設について、またその学校建設に至る前の学校の在り方について、毎回質問しているところです。

4、町立認定こども園について。ようやくここまで来たなどは思いつつも、ちょっと課題がある。これはどうするのかなという質問をします。

5、奨学金制度について。これは町長に少しお考えをお聞きしたいです。

6、不登校児童生徒への取組などについて。不登校児童生徒が増えています。どうしていけばいいのか質問をし、回答を聞き、共に考えていけたらと思っています。

大將陣公園横の産業廃棄物処理施設について。今動いているのかどうか。町はどう考えているのか。昨日も話が出ましたが、少しそこを確かめさせてください。

8、九郎丸に予定している焼却施設について。これは毎回同じ質問をしています。またします。

9、町誌について。なぜ今、町誌なのか、いまだに分かっていないんですが、説明は聞きましたが、納得できていない。少し違った角度からお尋ねしたい。

10、桂川駅舎などについて。これも常に入れていますが、1月に町長が駅の北側から王塚古墳に行くところの道路を整備したいと言われて、何だ、それはということがありましたので、そこを具体的にお尋ねしたい。12月の答弁で足りない分、さらに3か月間で変わってきていることがあると思いますので、同じような質問もありますが、よろしく御回答ください。

では、1、これまで検討するなどと言われたことのその後について。

①移住定住施策に関する庁内横断的なワーキンググループについてです。移住定住施策については、かねてよりその必要性を述べてきました。答弁で、庁内横断的なワーキンググループをつくって検討すると言われ、期待しています。質問です。ワーキンググループのこれまでの取組について、教えてください。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） 昨年11月に移住定住プロジェクトチームを立ち上げまして、2月末までに4回の会議を開催し、世代ごとの趣向や感性、また各担当部署からの目線で移住定住に関して協議を行っております。この中で、地理的要件や人口など、本町と類似している自治体等について、本町と照らし合わせ、特徴的な施策や事業等の比較研究を行いました。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） では、2ですが、そのワーキンググループでどのような意見が出てきているか、教えてください。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） 比較研究する中で、移住定住がうまくいっている市町村の特徴

としまして、子育て世帯への施策が充実している。また、町外への情報発信が優れているというところに一旦意見を集約したところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 進んでいるということだと思います。そこから新たな施策が生まれることを期待しています。私たちにできることがあるなら、私にできることがあるなら、協力させてください。

2月6日西日本新聞一面、人口増、子育て・雇用が要という記事があります。人口増、子育て・雇用が要です。桂川町の場合は雇用は難しいでしょう。子育てと思います。大刀洗町、前にも紹介しました。ここは、企業は周辺の自治体に任せようと。そこにお金をつぎ込まない。そして子育てに特化して施策を打っていった。結果として人口増になっています。町の規模も桂川とそう変わらない。福岡の近さ、そういったところを考えると桂川町もここを早期に打っていれば変わったと思われれます。もちろん今からでもして行ってほしい。特に今回僕が気になっているのは、飯塚がかなり子育て施策を新年度予算に入れていています。割と今まで嘉麻、桂川、飯塚のイメージやったんですけど、飯塚が上げてきています。嘉麻市は前からかなりここには施策を入れていています。桂川が陥没するおそれがあります。ワーキンググループを核としながらも、町長もそこをよく見て判断していただけたらと思います。

では、2です。70歳になられる方へ桂川敬老健康チケットの配付、これはかつて70歳になったときにお祝い金が町から出ていました。それが今ありません。ですから70歳になられた方に体育館やグラウンドゴルフ場で使うチケットをプレゼントできないのかと提案してきました。ぜひ検討したいと言われていました。どのような状況になっているのでしょうか。教えてください。

○議長（林 英明君） 川野課長。

○健康福祉課長（川野 寛明君） 配付の予定につきましては、令和6年度から70歳以上の希望される方につきまして、グラウンドゴルフ場総合体育館のトレーニングルームひまわりの里のお風呂で使えるチケットを配付する予定にしております、そのチケットに関する印刷製本費の部分につきましては、新年度予算で計上させていただいておりますので、進めていきたいというふうに考えております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 進めてあるということによかったなと思います。運動して元気になるだけじゃなく、お風呂でまたコミュニケーションもあるでしょう。非常に大事だろうと思います。今後も進めていただけたらと思っています。状況を見ながら、悪ければもう撤退しましょう。よければさらにもう一步。問題点があればちょっと検討していく、そういうふうにしてつく

り上げていっていただけたいなと思っております。町長、いかがお考えですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 新しい取組でもありますので、そういう様子を見ながら検討していく必要があると思っています。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） では次です。3月1日、県立嘉穂総合高校の卒業式に招待されました。廊下に写真がある中で、桂川町の小学生が大きな、体よりもはるかに大きなハクサイを抱えている写真がありました。桂川小の子供たちは嘉穂総合高校からそういった野菜作り、動物の触れ合い、またプログラミング学習など多様なことを学んでいます。ただ、桂川町は十分にお返しができていない。そこで県立嘉穂総合高校をもっと支援し、もっと連携する。そしてそのことは桂川町にプラスだけど嘉穂総合高校にとってもプラスになると私は思っています。意義あるものになると思いますので、ぜひ連携をしていく必要があると述べてきました。今、どうなっているでしょうか。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 総合高校と意見交換もさせていただいております。そういった中で、嘉穂総合高校の課題の一つに生徒数の減少、生徒の獲得をいかにするかということが挙げられていました。k e i s e nまちプラザでは、昨年、ミニギャラリーで高校生が作製したドレスの作品展示、それに併せてモニターに学校紹介の動画を放映したり、あとは学校案内のパンフレットを配架、そういったことで学校の広報活動の支援をまいりました。

また、今月の広報けいせんにおきましては、総合高校の生徒が一生懸命デザインしたk e i s e nまちプラザの看板について、記事を掲載させていただきました。とてもかわいいデザインと併せて、担当した高校生たちのすてきな笑顔がとても印象的でございました。生徒も含めた施設の御利用の皆様桂川駅、桂川町に愛着を持っていただければと思っているところでございます。

連携については、今までもお答えしましたとおり、高校関係者、農業関係者、商工会等で意見交換を今後も重ね、アイデアの抽出、その実現並びに相互の活性化に向けて取組を継続していきたいと考えているところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） かなりてこ入れしていただければと思っています。また、町はふるさと応援のときの返礼品でもお世話になっていまして、結構評判がいいと聞いておりますので、そういったところも相談によっては膨らましていったり、オリジナリティーをとというような考えもあります。よろしくをお願いします。

では、2に入ります。中長期的な課題ですが、井上町長は新年の挨拶の中で、中長期的な課題

にと言われて、そう、そこなんだよなとずっと思っていたので、井上町長はこの町の中長期的な課題はどのようなことを考えられていらっしゃるのでしょうか。教えてください。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 御質問にお答えしたいと思います。

一般論として中長期的といったときの期間の問題ですけれども、通常1年間を単位に短期、そして中期といったときには1年以上ないし5年、長期といったときには5年以上というのが一般的な感覚です。今、議員が質問されましたこの内容につきましては、1月の広報紙でその年頭の挨拶で述べている内容がございます。特にハード面につきましては、この中長期的な課題ということで、とにかく現在進めている事業としては県道豆田稲築線、九郎丸工区のこの道路の改良工事、それから七浦溜池の改修工事、そして認定こども園の建設、あるいはふくおか県央環境広域施設組合の新ごみ処理施設計画の推進、そして、ソフト面におきましては、いわゆる教育・福祉の充実、子育て支援、そして地域コミュニティー、こういった通常政策として挙げているものをこの挨拶の中でも挙げておるところです。ですから具体的には、特に中期的な取組としましては、既に着手している事業、着手しているものというように捉えております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 中は分かりました。長期的な部分はどうなことをお考えですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 長期的な部分の中では、これは、例えばいわゆる学校施設の関係とか、そういったものは当然上がってくると思いますし、またこれからどういう形で問題が提起されるか分かりませんが、人口減少対策、あるいはそれに伴う子育て支援施策、そういったものは長期的というよりも継続した形で取り組んでいかなければいけない、そういう課題であろうと思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 学校が初めて出て、長期的なのかどうかの判断は非常に迷っていますが、これは後でまた質問します。私は、考えたら、ひとつこれは水道事業は上がっていかないかなのやないかなと思っております。これは多分、今から10年ぐらいのサイクルで考えていかないと、配水池、浄水場、古くなった水道管のそういったことが急がないといけない状況じゃないかなと思っております。飯塚のほうではずっと水道管が整備されています。

あと、長期的というか、町民の意見を町政に生かす仕組みづくりが要るだろうなど。そしてそれを基にずっと町民と共に政策をつくっていく、そういうことは、これは今でもできるんですが、それを長期間する中で変わっていくのかなというような思いはあります。それは私の思いです。

では、先ほど言われた学校建設について質問いたします。

資料の1です。これは12月に出した分です。学校建設についての質問と回答。常にこれを入れ、私の質問の時間はある面これに取られているんですが、なかなか進まない。それで、ずっと町長には言われているのは、そのような状況にないんですよと。学校をどうするかという状況にない。学校の在り方を考えてほしい。いや、そこまでの状況にはないんですよと言われてきました。12月、どのような質問とどのような回答があったか。資料2です。2023年12月15日、柴田。少し読みます。

先日、香春の義務教育学校を見に行きました。僕はそのときに、この子たちいいなと思うと同時に、桂川の子、かわいそうやなと思いました。でも、かわいそうやなというのはおかしいよな。そうしているのは誰なん。僕なんだ。非常に申し訳ないと思いました。

親ガチャという言葉があります。いわゆるガチャガチャで何が出るか分からん。親ガチャは、どこに生まれるかでその人の選択肢は広がったり、狭まったりする。厳しい家庭に生まれたら、高校に行くのも難儀するし、大学なんて難しい。ある面、裕福なところに生まれれば、ずっと選択肢は広がり、留学もできる、そういう形になる。親ガチャと言われています。これ、町ガチャやなと思いました。どこの町に生まれたかによって子供たちの可能性が広がる、広がらんがあるんじゃないか。

なぜそう言っているかというたら、40年、50年前の入れ物の中じゃ、——これは学校を指しています——今の教育はできないんです。言うても分かからんと思いますから、見てください。その後また幾つか言って、その略の後、協議会や委員会を設置して、このテーマに絞って話し合わない先へ進まない。いつまでにするんですか、この状況。やっぱり設置が必要だと思います。町長、いかがですかと。

このときも町長は、現時点ではやっぱりそのような状況にないとそのように認識をしております、と言われました。

2ページ目、最初からいきます。ですから、これ町長の言われているんですよ、この学校の建設あるいは統合とか再編も伴うかもしれないけれども、そういったことも踏まえて、何か具体的な見えてくるもの、これも表現が悪いかと思いますが、いわゆる建設をするというような目標、例えばそれにある程度の期限、それから先ほど言いました学校の形態、場所、そういったものがある程度目安がないと、ただ単に意見だけを戦わせる、意見だけを聞くことでは、かえって住民の皆さんに迷惑をかけるようなそういう気がします。ですからそういうための事前の状況づくりが必要、とこう言われた。

質問なんです。そのような状況と言われている、まず。そのような状況って何だろう。具体的に聞きます。町長が言われている「そのような状況にない」という状況は、1、町民が学校建設を望んでいないということなんですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） いえ、そのようなことは申ししておりません。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） では、そう考えている人がおるということでいいですね。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 今議員が前段の部分で言われましたように、私そのような状況にないということは申し上げてきましたが、そのような状況にないという理由として、一つ一つということではなくて、総合的に考えたときにそのような状況にはないということでこれまで回答してきたつもりです。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） だから一本一本聞きよるだけです。じゃあこの1は、望んでいないことはない。いるかどうかは言われませんでした。

2、町長が建てる必要がないと考えてあるんですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 決してそういうことはございません。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 3、建てる費用がないんですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 建てることを前提とすれば、その財源の確保につきましては、それはやっぱりそれなりの努力が必要であると思っています。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 費用がある、ないは答えられなかったけども、努力は必要だと。

借金すればできますからね。あれこれしていますけど。長い面で見れば40年で返せばいいわけですから。

ほかに1から3以外に具体的なそういう状況にない、具体的に答えてください。こういう点がそういう状況にないんですよということを、お願いします。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 具体的と言われますと、なかなかこれというものが的確な言葉が見つからないんですけれども、これまでも何度も言ってきたと思いますが、まだまだこの基本的な方向性といいますか、そういったことについて定まっていない。私自身も迷いがあるので、そういった状況からまだ抜け出せ切っていませんので、どうしてもやっぱりそのような状況にないというような表現になってしまうところです。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） つまり町長の考えが固まっていない、悩んでいる。私が決めればできるし、逆になります。

質問2です。そうするためには事前の状況づくりが必要であると。そこに至るまでの事前の状況づくりが必要であると申し上げました。今度はその事前の状況づくり、どんな状況づくりが必要でしょうか。教えてください。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） いわゆる、先ほど言いました基本的な方向性、それを定めるための事前の状況、もちろん調査なり、協議なり、いろんなものが入ってくると思いますし、端的に言って一番頭が痛いのは、よく言われます学校の統廃合のことが言われます。このことについても、いわゆる教育総合会議の中でもいろんな意見がありますけども、やっぱり賛成、反対の意見があります。そういった内容のものについて、私自身もまだまだ勉強不足ということもありますけれども、状況として整っていないということでもあります。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） よく分かります。教育委員会でも、端的には東小をどうするかという問題が出ますよね。そのときに東小校区の方は、一人は残してほしい、一人はもう統合したほうがいいと。東小において中学は桂川中行ってからカルチャーショックにあっていると。だからもう統合のほうがいいと言われた方もいた。いろんな意見があるのも分かります。が、そんな意見があるから前へ進めないといったら一生進めませんよ。ほかの自治体はそれを乗り越えてやっている。だから町長一人で考えるからこげなるんですよ。町長の責任じゃないんです。これは町としてどうするかです。そうするためには、意見をまず聞きませんか。PTAの意見を。これは12月にも言いました。一緒に聞きましょう。あと区長さんたちの意見も聞きませんか。これから子供を小学校に上げることになる、小さな子供さんをお持ちの保護者にも聞きませんか。だから材料がないって材料をつくらうとしていなければ一生できませんよ。なかんづく現場で今、小学校、中学校に在籍している子供たちの意見も聞きませんか。ただ、問題になるのは、それしか知らなかったらそこにしか選択肢はないんですよ。外を見ない限り。先日ある集会で、これは町長も参加されとったんだけど、飯塚の武井市長が、飯塚市は小中一貫校、子育て施策で注目されていますと言われました。小中一貫校、子育て施策で注目されていますと。そしてそこに実際に来年度もお金をつぎ込んでいます。やっぱり材料がないじゃないで、材料はどうか、実際に現実を見つめてやっていくしかないと僕は思っています。町ガチャじゃ許されないんですよ。現在、文教厚生委員会では保育・教育環境整備というのを閉会中審査課題としています。だからうちの委員会でその辺は提起していこうかなとも思ったんですが、でも議員全員の課題ですよ。

というよりこれ、町が中心になるべきなんですよと思う。ですから、町の方から意見聞いたり、こういうアンケートも取っていいと思うんですが、町長が中心となってそんな取組をされませんか。してもらえませんか。いかがですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 正直申し上げまして、先ほど言いますように、やっぱり時間のかかる問題であると思っていますし、いわゆるいつからかとかという話になってくると、それは当面非常に、目の前の問題として取り組まなければいけない課題も多くありますので、考え方としては、今議員が指摘されるように取り組んでいく必要があるとそのようには思っています。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） いっぱい問題があるのは知っています。ただ全部を町長が解決しようとするから無理なんですよ。まず周りに意見を聞いていく。それは町長じゃないでもいいじゃないですか。その他に副町長もいるし、教育委員会もあるし、教育長もいるし、あとほかの人を立ててもいいでしょう。まず、状況づくりがないならば状況づくりのための材料を集める、そこから始めていくべきと思っています。ぜひともやっていただきたい。あれもこれも、だからこっちはできん、それはおかしい。なぜならば、この問題は町長は町長1期目のときに20年後はこうなることは想定できたはずです。一緒に進めていきましょう。文教厚生委員会にも提起していきたいと思っています。

では、次です。町立認定こども園についてです。

これは、昨日の大塚さんの質問の中で大体明らかになっていると思います。土師団地跡に2026年4月、2年後に開園すると言われました。（発言する者あり）土居です。すみません。土居の小学校横につくると言われました。私は、町内に2つある保育所、1つある幼稚園、町立を3つも持っているところはありませんよ。町立は国からの補助金が極端に少ない。ここは何らかの手だてを打たなでしようというのを言い続けてきた側の人間です。そしてこども園ができる、ようやくここまで来たなと思っています。吉隈が私立になり、土師保育所と桂川幼稚園がこの認定こども園になる、もうこれしか僕は道はないと思っていましたし、こうなるでしょう。早くつくるべきだと。そして言い続けてきていました。だから町長が決心されて2年後と言われて、よかったなと思いました。ほっとしました、正直。場所もあそこの土居の学校の横、便利のいいところよねと思ったんですが、文教の中でいろいろ話していると問題が出てくる。これは昨日もいっぱい出てきましたよね。それでちょっと文教の中で出てきた問題点を言いますよ。

まず、小中学校の保護者が送り迎えしているんですよね。あそこの駐車場を使っている。あれをどうするのか。なくすんですか。場所を変えるのか。場所を変えるなら給食センター横しかないよねという話をしていましたら、町長もそう言われた。ただ認定こども園をつくるなら送り迎

えの駐車場が要ります。昨日大塚さんが言われたとおりです。そのスペースはどうするんでしょう。あるんですかね。

3、学童の子供たちもお迎えの車が行きよるんですよ、あそこに。これはどうしますか。

さらに問題が、県道の工事と重なって、中学校横のため池改修工事とも重なる、工事が。ここは大丈夫なんですか。いろんな要素が混じっていますよ。

将来、学童の場所は現在の僕は幼稚園の場所にするのがベターだと思っていますし、それしかないだろうとも思っているんですが、そのときの駐車場をどうするんですかね。

また、あの水漏れが起こった小学校のプールを潰してこども園の敷地にしたらどうかなとも思ったんですが、じゃあそのときの水泳の授業はどうなるのか。またそこは敷地として活用できるのかな。いろいろと考えたし、文教でも論議しているんです。ここまで来たのはよかったんだけど、果たしてあそこで本当に大丈夫なのか。

昨日、井上町長は多くの課題があると分かっていますが、まずできるかどうか、設計などから始めたい。問題があればその都度相談します。計画の変更もあり得ると言われましたが、そういうことでよろしいですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 私が回答した内容に相違はございません。あえて言えば、今議員が申されましたいろんな課題がありますけれども、そういった課題については、私自身は解決できない課題ではない、ただ特に学校関係者、幼稚園関係者の協力が必要であるということが一つあります。

それからもう一つは、大きな工事になれば、当然のことながら安全性も含め、その後の利用の利便性、そういったものも十分考える必要があると思っておりますので、今の状況の中にその中にぽつんと施設ができるという発想だけはやめていただいて、そこも含めたところで周辺の環境をどう整備していくか。それについて町として必要な分、場合によっては用地買収等の必要性も出てくるかと思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 問題は、その周りの状況のイメージが湧いていない。これは議運の中で言ったんですかね。要は県道がどこをどう通ってどれぐらいの高さなのか。平行にしていたら段差ができたり、それはどうするのか。どの位置をどう通るのか、全く材料がないんです。だから文教としては、これの採決の前にそこをイメージができない限りはできんじゃないねという話もあります。確認したかったのは、やってみてどうもいろいろ問題点があるよち引き返せるだけの勇気があるのかどうかです。今まではやったが最後でずるずるいっとるんですよ、何でもかんでも。うちだけじゃないですけどね。大阪万博なんて最たるものですが。ですから、ちよっ

とこれ難しいぞと思ったときには、撤退するだけの覚悟があるかどうかです。ありますか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 撤退する覚悟というよりも、その前に、前に進むことが大事だと思っております。その中で、先ほども言いますように、難しい問題があれば何とかクリアはしていきたい、その覚悟は持っているつもりです。ただ、いよいよ、昨日も言いましたけれども、本当に不測の事態といたしますか、そういうようなことが考えられれば、それは当然また考え直すということもあり得ると思います。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 分かりました。どうしたらいいのかは、自分がどうしたらいいかは分からんけど、言われることは分かりました。その覚悟でもって学校建設もいってほしい。よろしくをお願いします。

では次、2です。来年度予算に桂川町こども園新築工事基本実施計画業務委託料3,783万円、建築用地分筆登記測量委託料244万円、建設用地地質調査業務委託料810万円、計4,837万円が上がっていますが、このお金、教育・保育施設整備基金を使うのですか。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） 今回はその基金は充当しておりません。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 私が撤退するのと言ったのは、4,800もつぎ込んで撤退し切るんかなちいうのがあるからです。ちょっといきなりには額が大きいなと思っています。

もう一つ、園を建設にかかるときは、大体4億ぐらいはかかりそうな気はするんですが、これはどこからお金出しますか。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） こども園の整備に当たりましては、まずは国県補助金や交付税措置のある起債など、町に有利な財源確保を図ってまいります。その上で必要な場合には認定こども園自体、教育・保育施設整備基金の目的に沿った施設でありますので、取崩しの是非を検討すべきと考えております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） ありがとうございます。学校を建てるお金が減りそうやなってちょっと不安です。

3です。来年度、あと20日後ですが、土師保育所の3歳児、4歳児、5歳児の人数、桂川幼稚園の3歳児、4歳児、5歳児の人数を教えてください。

○議長（林 英明君） 江藤課長。

○子育て支援課長（江藤 栄次君） お答えいたします。

4月1日の予定でございますが、土師保育所、3歳児が22名、4歳児が29名、5歳児が21名でございます。

幼稚園につきましても、私のほうから回答させていただきます。幼稚園につきましても4月1日予定でございますが、3歳児が7名、4歳児が7名、5歳児が15名の予定でございます。以上です。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 毎年3月か12月に言っているところなんです、土師保育所と桂川幼稚園における子供の数と、そこに関わるところの教師の数が大きく違います。およそ2倍違う。今まではそうだった。明らかな差があります。このままの職員配置では、こども園になったとき、その異常な差を保護者の皆さんが目にするようになります。何度も意見を述べているところですが、解消する必要があると思います。本年度、再来年度、少しずつ解消せんと、それこそゴールは見えているんですが、町長はどうお考えですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 当然のことながら並行した形で協議も検討も進めていく必要があると思っています。ただ、ちょっと捉え方なんですけども、幼稚園がそのまま認定こども園に移るといいうわけではございません。3歳児、4歳児、5歳児の子供たちは同じような形で教育保育を受けるわけですけれども、そういったカリキュラムの在り方等については、教育委員会を中心に、子育て支援課もそうですけども、協議をしていくということになりますので、いわゆる認定こども園とすれば、土師保育所と桂川幼稚園が合流する形になりますので、そこら辺はいわゆるイメージとしてお願いしたいと思います。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） いや、もちろんイメージ持っていますよ。その中で教員配置をどうするかが出てくるんですよ、2年後に。そこに向かって今のを少し修正していきよかと、すんなりいかんでしょう、どう考えても。そこを言っているだけです。よろしくお願いします。ちうか、しとかなですよ。

では、5、奨学金制度について入ります。

端的にお尋ねします。前言ったように、嘉飯山、田川、直鞍の中で奨学金制度を自治体としてつくってっていないのは桂川町だけでした。井上町長にお尋ねしたいんですが、なぜ桂川町では奨学金制度をつくってこなかったんでしょうか。教育長は前回答えられとるんですよ。でも、言われたんです。何で教育長が答えたん、あれって。町長やろうもんって。いや、町長にしていたんだけどという話の中で、何でかといったら、教育長は私より教育長期間短いんですよ。私の

議員より。私が議員になってちょっと後になりました。だから経過は御存じないはずなんですよ。知っているのは5期目の町長ですよ。ですから町長に、何で奨学金制度うちだけできんやっただけでしょうという端的な質問をしています。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 何でできなかったのかという質問に対して、ちょっと私も回答ができません。そういう課題として具体的な提起は受けていない、そのような気がします。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） つまり提起しなかった側が悪かったということですよ、それやったら。また提起したらしてもらえるうちことやったのかな。そこに気づかない側の問題もあると思うし、提起しなかった側の問題もあるだろうけど、実際に厳しい中生きていく親や子はそこは気づいていないと思います。もちろん相談があつて、原中さんところに相談があつたからこの問題が文教で明らかになった。そういう意味では議員がいいかげんにしとったのも間違いないのかもしれない。町長が言われる、議員から指摘がなかったと言われてもそれはやむを得んか分からんけど、つまり何が言いたいからいうたら、いろんな意見を僕らが吸い上げ切れていないという事実です。町も吸い上げ切れていない。議員も吸い上げ切れていない。見ているのはどこだろう。自助共助できないで公助に頼らざるを得ないところを僕らが本当に見ているのか。僕は見れていない。よく分かりました。今回の奨学金の件で。申し訳ないとも思います。そういったところを見れる力というか、僕らはないんですかね、能力が。だったらそういうのを吸い上げるシステムが要ると思います。この町の課題です。すみません。自分の思いを言いました。

では、2です。奨学金については、町長は12月、こう答えられました。今、教育委員会のほうで検討されていますのでその提案を受けて考えていきたいと思います。今、教育委員会が提起されたとき、教育長は少なくともしていかなやろうというような答弁やっただけですよ。町長はそれを受けて、していくようにしていただけますか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） これは以前にもお答えしたとおり、この奨学金の制度の必要性はあると考えておりますので、提案を受けて、たしか教育長の答弁の中にも令和7年度からを目指してというような発言があつたかと思いますが、対応はしていきたいと思います。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 準備とかがある場合が必要だったら補正でも組んでいただけますか。そのための準備が必要でお金が要るときは補正を組んでいただけますか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 必要があれば検討します。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） ありがとうございます。

6に入ります。昨日、杉村さんが質問されたことと重なってきます。同じ課題を共有しているなど、よかったなと思います。ぜひ文教厚生委員会においでください。

さて、質問です。不登校について。桂川町の2021年、22年、23年、この推移を見たいので、3年間の不登校児童数、生徒数を教えてください。

○議長（林 英明君） 平井課長。

○学校教育課長（平井登志子君） 不登校は、年度間で30日以上欠席した児童生徒となります。

病気などの長期欠席を含む人数となりますが、不登校と長期欠席の児童生徒数は、2021年度で72名、2022年度で64名、2023年度では1月末現在で69名となっております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） すみません、小中で分けてください。

○議長（林 英明君） 平井課長。

○学校教育課長（平井登志子君） 2021年度、小学校28名、中学校44名。2022年度、小学校23名、中学校41名。2023年1月末現在、小学校20名、中学校49名でございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 大体、小学校が平均で24ぐらいかな。中学校が45ぐらいになりますかね。小学生は6学年あります。中学校は3学年ありますから、大体中学生が2分の1になるのが理屈ですが、残念ながら4倍になっている。つまり小学校から中学校に行くときの非常にここのハードルがある。これは、実際にフリースクールの方も言われていました。小学校まで頑張っていたけども中学校で力が尽きたんで、そういう子がいますよって。学校のせいじゃなくて、そういう非常にやっぱり厳しいものがあるようです。

さて、2023年、去年の10月4日西日本新聞一面、一面に書いてあるんですよ。「不登校生22%増」。それは1921年と22年の比較でした。22%増とありました。桂川はそこまですべていっていません。もともとちょっと多いもので。全国的に問題になっている。学校で現在行われている不登校に対する取組を教えてください。これは昨日も言われましたが、またお願いしたい。

○議長（林 英明君） 平井課長。

○学校教育課長（平井登志子君） 学校においては、昨年度12月に改定された生徒指導提要进行を基に全教職員の研修を進め、課題への的確な対応ができるようにするだけではなく、魅力ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒一人一人のよさと可能性を全教職員が一体となって伸ばし

ていけるようにしているところです。不登校状態が続けば、学業の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクなどが大きくなってきます。中学生になると不登校が増加する傾向にあり、特に中学1年生で不登校になる生徒の多くは小学校時代に不登校を経験している状況でございます。

また、そのような生徒は1学期の段階で不登校になってしまうケースも多いことから、入学当初から担任などによるきめ細やかな指導や、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図った対応を行っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 小学校のときの子がそのまま不登校になりやすい、それは分かっています。ところがそうなったときに中学校の分母はこれ少ないんですから、小学校で30おったら中学校は15でいいはずなんです。小学校の不登校の中学校に行くのは。ところが小学校の倍になっている。4倍なんです。そういう意味では、実質。それは全国的にもそうなんです。西日本新聞の数値を見ても、小学校と中学校、中学校のほうが見事に倍なんです。それだけ厳しい状況があるんだろうと思っています。中学校に文教厚生委員会で行ったときに、不登校の取組についてお聞きしました。事前にそれについて聞かせてください。相当のことをしてありますよ。一人一人の子供に対してどう向き合いかって。ただ、それでも不登校が出ているんですよ。これはもう学校の限界を超えています。明らかに超えています。

質問ですが、では行政は不登校に対する取組をどうしているのでしょうか。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） まず、不登校の数の問題からちょっと触れさせていただきたいと思えます。

先ほど学校課長が申しましたように、数が相当あるということで私どもも深刻に考えているところなんです。ただ、この数の出し方については、30日以上欠席をした者はその数がずっと1年間残ってくるということで、当然その中には学校復帰をした児童生徒もいるということだけは、ここでお知らせしておきたいというふうに思います。

質問でございますが、不登校対策ということにつきまして、私ども行政といたしましては、児童生徒に直接指導ということはなかなかできかねますので、学校への指導、そしてまた環境整備というところに重点を置いて取り組んでいます。

まず、指導面におきましては、教職員が日頃から児童生徒の変化や成長に対するアンテナを高くするであるとか、保健室、教育相談室との連携を図ったり、また保護者との信頼関係づくりを行うなど、積極的に行うような形で指導はしているところでございます。

また、環境整備面につきましては、いわゆる学校教員以外の専門職としてのスクールカウンセ

ラー及びスクールソーシャルワーカーを町独自に時間を増やして学校に配当をしております。

また、不登校及び不登校兆候を見せ始めている児童生徒に対応できるような加配教員を、関係団体とともに国、県に毎年要望をしている状況でございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 1年間に30日以上休んでいる子が、小学生で、20クラスとして一クラスに3人ちょい、中学校に至っては、一クラスに5人ぐらいいるちいうことになりますかね。僕もこれ大変だなと思います。今、行政の取組とお尋ねして教育長が答えられたんだけど、本当はここは健康福祉課とか、子育て課が出てきてほしかった。つまりその発想が町の場合ないんかなど。ないんでしょう。全体で取り組まなっているのは思っています。このままじゃ不登校増えていって、学校じゃもう対応、当たらんようになります。見えていますよね。学校、行政、地域が一体となって何らかの取組を打たない限りは厳しいだろうと思っています。今後、どんな取組を考えられているんでしょうか。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） 昨日もお答えした部分もありますが、不登校児童生徒の支援というのは、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することを目指す必要がありますが、このことは学校教育ということを否定するものではないと考えています。学校教育の役割というのは極めて大きくて、学校教育の一層の充実を図るための取組がやはり重要であると考えています。既存の学校教育になじめない児童生徒については、学校としてどのように受け入れていくか、そういったことを検討し、なじめない要因の解消に努める、そういった必要があるとするのが文部科学省の見解でもあり、私どもも同様に考えて、今後も重点課題として取組を進めてまいります。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） またちょっと後で重なるところがありますので、そのときに述べます。

今年の1月24日、西日本新聞にこんな記事がありました。

我が子を自宅に一人。その日保護者はどうしても外せない仕事があった。我が子は一人で自宅にいる。寂しい思いはしていないだろうか。ちゃんと御飯は食べているかな。まさか怪我などしていないよね。窮地に渦巻く不安。仕事にも集中できない。そういう子供の保護者は、保護者の70%が不登校をきっかけに働き方が変化したと書いてある。70%。だから不登校の問題は子供の問題だけではなく、全体を巻き込んでいく。そこの手だてを町として打っていかないけんのじゃないかと私は思っています。

井上町長は総合会議でも不登校の問題出たと思うんですが、不登校の問題をどう考えられてい

ますか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 不登校の子供たちの数の多さということについては、非常に深刻に受け止めております。具体的な対応につきましては、学校を中心に教育委員会を含め、いろんな手だてがあるかと思っておりますけれども、とにかく子供さんたちが学びが継続できる、そのような環境づくり、これを教育委員会と一緒に取り組んでいく必要があるとそのように思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） そうです。行政と学校とってならんといかんと思います。もちろん教育委員会は行政なんだけど、行政と学校が一体で、教育委員会だけじゃなくてね。それはあります。

フリースクール、一つの解決手段がフリースクールと思い……。

○議長（林 英明君） 柴田君、ちょっと休憩しましょう。

暫時休憩。次、10分から始めます。

午前10時59分休憩

午前11時10分再開

○議長（林 英明君） 会議を再開します。

柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） フリースクールについてに入ります。

3月5日、文教厚生委員会の報告で述べましたように、委員会で筑穂中学校の近くにあるフリースクール、みんなのおうちを訪ねました。子供たちが、生き生き伸び伸びしていました。その姿を見て、桂川町にもこのような施設があればいいのになと思いました。桂川町でフリースクールに行っている子供の数を教えてください。

○議長（林 英明君） 平井課長。

○学校教育課長（平井登志子君） 現在2名の児童が通っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 小学生2名ということですね。桂川町にはフリースクールはないので、他の市に行っているんだろうと思います。ということは、行っていない子は、家庭しかおり場がないということになるんでしょうか。

○議長（林 英明君） 平井課長。

○学校教育課長（平井登志子君） フリースクール以外では、校内では中学校のサポート教室、部活動。小学校では、家庭での学習の支援を行うとともに、保健室登校や別室登校など家庭以外で

学習につなげておりますが、学校以外で考えられるものとしましては、自宅と学校でのオンラインによるやり取りでの学習や学習支援ソフトの活用、また家庭教師を利用したり、民間の学習塾などと考えております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 中学校の校内サポート教室に行きよう子供があの人の中に入っているということなんですね。11人が、全部やないかも分らんけども、とすればもう少し減るちいうことかな。

では、次なんですけれども、実は文部科学省は令和5年3月、去年1年前にCOCOLOプランというのを出しています。COCOLOプラン。副題として、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策。誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策。そして一面には大臣メッセージがある。その中に教育行政の責任者として私は、不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。2、心の小さなSOSを見逃さずチーム学校で支援するというようなことが書かれていて、誰一人取り残されない学びの保障というのを提起されています。文部科学大臣、永岡桂子さん。そしてその中で、単に学校だけではなく行政、民間、そういったところのつながりが必要であると述べられている。こういうのが1年前に出ています。この中にフリースクールというのも書かれています。少しずつこんな動きが起きている。1年前にこの提言がありますから、予算的にも少しずつ始まっていくと思いますので、ここにも注視していく必要があると思いますし、実は3月10日、2日前かな、西日本新聞です。これは県の予算について書いてあるんですが、2022年度の県立高校と公立小中学校の不登校生生徒数は約1万6,284人で、2年前より5割以上増えた。こうした現状を受け、県教育委員会は不登校の児童生徒の支援に力を入れる。誰一人取り残さない教育とあります。いろんな施策が出てくればいいんですが、そんな施策も見ながら町は町独自でやっていかないといけないんじゃないかなと思います。

今後の取組なんですけど、嘉麻市にも飯塚市にも、フリースクールあります。そして筑穂中学校には、昨日、杉村さんが質問されていた校内フリースクールがあります。桂川町、今後どう取り組むのか。先ほど言われたと思うんですが、ちょっと重ねて言ってください。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） 私もこの文部科学省が出しましたCOCOLOプランに基づいて答弁もしていきたいと思うんですが、不登校の児童生徒の学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えることは、不登校支援の原則だと思っております。そういったところから、フリースクールの存在というのは、学校に来れない児童生徒にとっては大きな価値があると認識をしております。

先日、近隣のフリースクール関係者の方とお会いをし、桂川町にとってのフリースクールの在り方について意見交換をいたしました。設置をするに当たって乗り越えなければならない問題というのが多々あるんですが、そういった課題というのは見えてきたところであります。

その協議の中で現在、桂川中学校において教室に入れない生徒に対応できるサポート教室と呼ばれる校内適応指導教室を設置をしております。これも昨日答弁をさせていただきましたが、1月末現在、11名の生徒が通級をしております。通級をしている生徒というのは、その中の学習内容としまして、自分のペースで可能なときに来室をし、学習を行っておりますが、あくまでもこれらの生徒は自宅から学校まで来れる生徒ということで限られています。

課題といたしましては、自宅から出てこれない児童生徒、そういったものをいかに外に意識を持たせていくかということだと考えます。

次に、このサポート教室の中の活動の再構築というのも必要だと思っています。現在、個別学習を行っておりますけれども、そこに通級する生徒と共同して何かを作り上げる場、将来の夢や目標について語り合える場など、そういった社会性を培う活動の創出というのが今後考えられると思います。議員言われる校内フリースクールということなんですが、桂川小学校に設置をしておりますこのサポート教室を校内フリースクールと捉えるのであれば、このサポート教室の中身のバージョンアップというのは早急に図っていく必要があると考えております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） その充実というのは本当に大事だと思います。ただ、これは杉村さんも言われたけど、学校に行けない子もいる。教育長も言われたように、その課題。その子供たちのおり場というのがあればいいんですけど、どこかの社会的接点つなげとけばいいんですけどね。フリースクール等に関わっている方の話では、不登校の生徒の30%はそのままひきこもりの大人になっていきます。いずれにしろ、町全体行政で今のうちに取り組んでおくことのほうが明らかにいいんですけどねという話でした。私もそう思います。

不登校の子供の家以外のおり場としてフリースクールもあると言うけど、フリースクールはお金がかかるんですよね、やっぱり行くのに。そこもちょっとなかなか大変ですが、実際に飯塚、嘉麻にフリースクールありますので、そこと連携していくことが可能なんじゃないかな。ちょっとそこはやってみないといけないんじゃないかなと思うんですが、飯塚、嘉麻との連携ということとは考えてありますか。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） 飯塚、嘉麻市に設置をしてあるフリースクールというのは民間の施設でございますので、こちらが個別で行くことについては可能だというふうに思っています。ただし、飯塚市内の適応指導教室というのがありますが、そこら辺は教育委員会同士での調整が必要

になろうと思っていますので、そこに希望される子供さんがおられるのであれば、しっかり調整はしていきたいというふうに思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 市が運営されているとこの周りがあるように聞いていますので、そこも一緒に調べて、何らかの解決策に持っていかれたらと思っております。井上町長もこの辺、他の市に働きかけをお願いいたします。

では次の質問に行きます。7、大将陣公園横の産業廃棄物処理施設についてです。

これも昨日と同じことを聞くんですが、新たな情報がありましたら教えてください。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） お答えいたします。

行政報告のほうにもございましたように、風向風速計が大将陣公園のほうに設置をされておりまして、現地における環境影響調査が継続して実施されていることは把握をしているところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） これは1年かけるから1年後に動くということですが、その1年の間に一気に業者のほうは準備していると思います。建設の予定の話があってもう1年たっています。井上町長のほうに皆さんからどんな意見が届いていますか。区長さん以外に。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） この件について、いわゆる直接的な意見といいますか、そういったことについては、お二人ぐらいの方からお聞きをしました。それはいわゆる不安なところであります。どのような話になっているのかという、そういう心配される声はお聞きしております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 私にはそれ以上の数が、電話とか、直接会って話しています。つまりなぜかといったら、情報発信が少ないからだと思います。これは昨日、吉川さんが提起されています。井上町長は情報発信について、産業廃棄物処理施設については議会だよりで紹介されているでしょうって言われたけど、それは議会がしたんです。議員がしたんです。町は、町長は何をされるんですか。吉川さんが昨日、町として事実を知らせ、考えてもらうべきではと問われました。町長は説明する内容はないと言われました。ありますよ。例えば現在分かっていることだけでも町報に載せていいんじゃないですか。そうすれば情報がなくて何かあり得ると不安に思っている方たちには少し、ああこうなんだって分かると思う。例えばこんなことは説明できますよ。大将陣公園横の森に地図も入れましょう。福岡金属興業株式会社という会社が産業廃棄物処理施設をつくらうとしています。廃棄物は次のようなものがあります。いっぱいありましたね。

20ぐらいあった。地元の住民の方は反対されています。議会は、住民の健康と福祉を守り、住民の声を政治に生かすため、住民の同意のない限り産業廃棄物焼却施設の建設に反対していますという意見書を県に提出しています。これだけ載せても1ページいきますよ。知る権利、知らせる義務、町民の皆さんに何があるのかやっぱり知らせるべきだと思います。分かっていることは少ないけど、分かっているところはしていきましょう。検討されませんか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 検討はしていきたいと思います。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） お願いします。

3ですが、県へはどのような3か月間、前の質問からありますが、どのような働きかけをされましたか。また、どんな回答がありましたか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 私としましては、県への働きかけは、その後、いわゆる12月の議会で報告しました。その後には特には行っておりません。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） かつて中泉に産廃問題があったんです。そのとき何回も県に言ったと言われました。おかしいと言って反対運動している人もそうやけど、そこの市長、そこは半径の中に小竹、飯塚、福智町、直方がかんでたんですよ。そういったところにも行ってもらったりしていますとか、とにかくそれは大事ですよという話は聞いています。働きかけということがですね。ぜひ、例えば県庁に行くこと多いと思いますけど、ちょっとどうなっていますかとか言っていたら、言いにくいなら、議会がうるさいので聞きましたとかぐらいでいいじゃないですか。お願いします。

では、8、九郎丸に予定されている焼却施設についてです。

3月9日の毎日新聞にかなり記事が載っていました。何か話があったんでしょう。それ含めて、どんな状況になっているか教えてください。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 行政報告でも御報告をさせていただいておりますが、一般廃棄物処理施設の建設に係る事業者選定委員会というものが設置されまして、協議検討が始まったところでございます。また、施設組合再編室のほうで地権者との交渉も精力的に実施をしているところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） お金が370億プラスアルファいろいろかかるみたいにも書いて

あったように思っているんですが、できるだけ、ある情報は流していただきたい。

さて2番ですけれども、資源再生センターとしての考え、これ前も聞いたんですが、どうも町長とずれがあると思っていますので、何を柴田が言いたいかを今からお伝えします。

資料3になります。これは長崎市のごみ置場です。10月末に行ったときに撮りました。長崎駅の前のちょっと山になっているところにある道路にある分です。分別が、燃やせるごみ、プラスチック製容器包装、それから資源ごみ、燃やせないごみ、と同時に横のほうに蛍光管入れがあって、丸い缶の中には電池入れとなっています。こんなものは細かいことをまずしません、こんなこともできるんじゃないですかということと言いたかっただけなんです。こんなふうに分類を細かくしていけば廃棄するごみも減ります。資源として生まれ変われるごみもある。

文教厚生委員会を中心に大木町を訪ねました。ここは二十幾つの細分化しています。捨てればごみ、分ければ資源。町の各種計画書には、SDGsの必要性が書かれています。ごみの焼却場をつくるなら大型ごみ焼き場どんだけじゃなく、資源再生センターとしての位置づけがこれからの時代、必要です。これはできれば、次世代にこういうことでつくりましたよと誇れるんじゃないですかね。

12月議会で井上町長はこう答えられたんです。この案件については本町にとっても非常に重要な案件だと思っております。九郎丸の焼却施設です。今申された資源の再生についても、当然今後、具体的な計画が出てくるものと思っておりますと言われました。人ごとなんですよ。大体計画が出たらもう終わりというパターンを何回も見ているからずっと言い続けているし、井上町長は副組合長です。ポジションはナンバーツーです。だから具体的に、資源再生センターとしての必要性を言っていただきたい。予定地の長です。だから言い続けていただきたいんですが、いかがですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 今御指摘のそういったごみの分別収集も含めて、この資源の再生センター、この考え方そのものは必要であると思っていますし、また具体的に組みんでいかなければいけない、そういう案件だと思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） どんどん提起してもらえますか。いかがですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 本町の中に計画されているわけですから、地元の意味も含めて、提起はしていきたいと思えます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 言いにくかったら地元の議員が言いようち言ってもらっていいで

す。ごみの分別自体は今でもできるはずなんですけどね。なし取り組まんちゃろかちのが気になっています。全体の中のどこを使うとかがあるのかな。分かりません。

では、9、町誌についてに入ります。

次年度の予算書に町誌に係る金額が既に上げられています。ということは既に改革がある。この計画については、昨日大塚さんの質問で答えられました。

それで2に入ります。大体費用として4,000万ぐらいあったかな、それに職員給与を含めたら1億円ぐらいかかると見ています。今の予定より膨らまない、これ以内に収められるという自信、ありますか。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） 物価高騰とか、賃金高騰の影響を受けなければこのぐらいで収まるかなと思っております。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 一般会計次年度会計でもまた質問することになると思いますので。

昨日、井上町長は町誌の大塚さんの質問に、町誌は無駄遣いな事業というふうに聞こえますよと言われました。あなたの言われていることは町誌は無駄遣いな事業というふうに聞こえます、と言われました。私、無駄とっていません。むしろ町誌、好きなんです。でも今必要がないとずっと言い続けました。今は資料集めをして余力ができたときに電子化すればいいだけです。

これ、町誌です。桂川町誌。めっちゃ重たいんですけどね。2段になっています。これはその後に出ています。鞍手町誌、これは800ページあります。多分これぐらいのが作られるんだと想定していますが、この重たいものを見ながら、町長が言われたようにこれを見ながら、そう見ますか。これを見たとしたら、お家におられる方ですよ。私のような年金生活者、お茶でも飲みながら見ろかという本の厚さじゃない。それよりも、電子化しなっせって。そうしたら子供たちはどんどん活用しますよと言い続けてきているところです。本は要りません。だから、現在計画されているこの紙ベースの部分には反対なんです。資料集めは大賛成ですけどね。だから何回も言われたけど、町長が言われたけど、まだ納得できないというか、町誌を要はやっぱり作ろうと思うように、ここでちょっと私に説得をお願いします。町長。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 私からすれば、議員は十分承知されていると思うんですよ。だからあえてそれを繰り返して言うつもりはありませんが、今は必要ないということはないと思います。私は今でももう遅過ぎるぐらいだと思っています。昭和42年に発刊ですから、55年以上経過しているわけですけども、本当にこの間、私どもも考えてみますと、時代は随分変わりました。いろんなことがありました。記憶はだんだん薄れていっている部分がたくさんあります。せめて

早い時期にすべきだったのかもしれませんが、なかなかその提案までいかなかったというのが現実的な問題だと思っています。今取り組んでもやっぱり数年かかります。先ほど議員が言われますように、これは町が作る町誌ですから、やっぱり公平性、それからそういう意味では分かりやすくという、いろんな要素があると思います。そういったものを系統的に整理しながら町の歴史を町民の皆さんと共有できる、いわゆる資料として整備する必要があると思っています。先ほど言われました、無駄遣いのように聞こえると言ったのは、それよりもこっちがいいじゃないかというそういう比較論ではなくて、これは町の責任として必要な事業であるという立場に立って私は考えているところです。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 言われていることは分かりますが、納得できない。だから今はせんでいい。整理しとく。今の時代、DX化とか言いながら、何でこんな重たい紙ベースなんですか。1冊1万円以上するでしょう。誰が買ったら、何冊出るんですか。それよりネットで調べて、必要なところで見たら、そっちのほうが目立つと思うんですけどね。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） デジタル化に関する議論は、内部でも大分いたしました。結論的には、本の形で刊行しようとしているのは、デジタル化するとそのものが埋没してしまうと。どこにあるのかも分からなくなってしまうというのが過去あったそうです。特に、民間で10年以上前から社誌をデジタル化しようというような話があったそうですが、全く進まずに今に至っているということもあります。そういったことから本のほうが残るだろうと。そして本にしたものを後でデジタルデータ化して公開するという形を今考えております。

ちなみに昭和42年発行の桂川町誌につきましては、今、王塚装飾古墳館のホームページ上にデジタルアーカイブとして載っておりますので、御覧いただけます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） だからそっちのほうがいいでしょう。もっと言えば、電子化するなら電子化しときゃいい。何部か印刷してから図書館に置ときゃいいじゃないですか。それだけの話でしょう。発想は違っていると思います。まあいいや。すみません、時間がありませんので、ちょっと考え、違うなと思いました。

10です。桂川駅舎などについていきます。

桂川町を知らない人がJRで桂川駅に来て、ここからどこにどう行けばいいの。真っすぐ行くか、左に行くか、これすら分からないという話です。案内板とかは要るやろうとずっと言い続けてきました。当然所管である総務経済建設委員会で同じ指摘があっていたはずですが。文教としては、うちの所管である王塚古墳、ここにきっちり行ける、それを作ってくれと。矢印をきっちり

としてくれという話が何回も出ています。現在、この駅舎内外のサイン計画、どうなっていますか。

○議長（林 英明君） 原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 駅舎内外のサイン計画については、本年度サイン計画企画部会により、サイン設置の調査及び今後の設置に必要な対策を検討してまいりました。現在、それが設置に至っていない状況でございます。ここにつきましては、令和6年度において桂川駅から王塚古墳に真っすぐつながる道路、町道豆田瀬戸線、こちらの道路の整備に取り組むということで、そういった計画に手戻りが生じる可能性があるということで、サインについては全体的な統一性を持たせたいと、こういう観点から、この6年度の計画と合わせて設置することが望ましいということで設置には至っていない状況でございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 計画はあるんです。もうできているということですか、今のは。

○議長（林 英明君） 原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 計画については、そういう検討会の中で設置に必要な箇所の選定並びにこのようなデザインが望ましいのではないかという企画部会の提案、ございました。方向性としてその提案はあったんですけれども、サインの看板についてはプロの専門家のデザイン、こういったもので町のイメージアップにつながるサイン設置していくということで、最終的にはこういったデザインの設置までは6年度にはできていないという状況でございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） そんな難しいものを作れって言っているんじゃないくて、行けるようにしてくださいって。道路、書いてあるところを通っていけるように、迷わんようにするのは簡単でしょう。まずそれをしてくださいということは、文教ではいつも言っていました。

では、2に入ります。先ほど言われたけど、何で今さら桂川駅前から王塚古墳のところまでどんと道路を造るのか。これ唐突なんですよ、こちらからしたら。何でこんなものが考えられたのかな、そんなん失礼やな。どうしてこれ造るんですか。お願いします。

○議長（林 英明君） 原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 町道豆田瀬戸線につきましては、町長からの行政報告にもありましたが、現在、桂川駅正面の駐輪場から先の部分の幅員が非常に狭いことと、道路と平行にある水路の影響により歩道がない状況であり、これを改善していき、町の大きな観光資源であります王塚古墳につながる道路のイメージアップを図っていきたいと考えております。

なお、令和6年度においては、測量設計調査費のみを計上しております。

また、この沿道に当たる用地の対象者に当たる方の協力が得られる方向性も出てきましたので、

こういったことも含めて、今年度、令和6年度の取組を開始しようとするものでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） もともと僕は何でここをせんやったんやろかって思って分からなかった。やぶれ屋さんところ、通っていますよね、細い歩道みたいなイメージなんだけれども。だったら最初からそれ、今頃どんとやるなら、すりゃあいいじゃんって。歩いて行く人にとっては、その大きな道よりも色まで塗ったあの歩道を使ってもらったほうがいいでしょう。車でいうなら、車はナビがありますから、あそこ通らんでしょ、多分今後。必要ないと思うんだけど、以前からすればいいのに、何で最初からそれできるんならすりゃいいのに何でせんやったのかなって。何で今上がったのかが分からない。町長、お願いします。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） この路線については、議員も申されますように、本当に必要性があります。当初の計画の段階、要するに桂川駅を中心にした周辺の整備計画、この中には計画としては上がっているところです。ただ、用地買収の関係で関係者の協力が得られるかどうかというところがなかなか難しい点がございました。今回、先ほど課長が説明しますように、用地買収に対する協力、そういったものも一定のめどがつきそうでありますので、提案をしているところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） だからそれは分かりました。ただ、今言っているように、王塚古墳の行く道があるわけですから、それなのにまたお金使う必要が無駄遣いになりませんか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 先ほど言いますように、桂川町にとって桂川駅から王塚までのあの道路、これは町のイメージといいますか、そういったことも含めて貴重な路線であると思っております。そういう意味からしましても、先ほど言われました、いわゆるやぶれ屋さんの前のあの路線は、ちょっと入り口が外れているということもあります。将来的に考えても、あの正面にある道路の改良、これは必要だとそのように判断しています。

○議長（林 英明君） 柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 余裕があるなら分からんでもないんですけど、南口を開発したんでしょう。南のほうというイメージがあるのに、いきなりまた北に行っちゃったなというのがあるって、首尾一貫していないなと思ったんですが、そこはどうですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） いわゆる駅の周辺ということで理解をお願いしたいと思います。

○議長（林 英明君） 柴田議員、これが最後です。

○議員（3番 柴田 正彦君） はい。詳しく分かったらお願いします。

最後です。観光案内所、来年度の活用計画、お願いします。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 観光案内所、k e i s e nまちプラザと名称をつけております。

k e i s e nまちプラザの看板につきましては、先ほどお答えしたとおりでございます。今年度、嘉飯圏域定住自立圏事業の一環といたしまして、2市1町、桂川町、飯塚市、嘉麻市で観光に関する動画を作成しております。まだ公開には至っていないんですが、動画ができましたので、k e i s e nまちプラザのモニターに映している映像、これを再編集して流そうというふうを考えているところでございます。これでもって嘉飯圏地域に興味を持っていただけるお客様が増えることを期待しているところでございます。

さらには、まだ検討段階ではございますが、地元の事業者と連携してW i — F i環境を整えてはどうかと。ケーブルテレビで流されているような町の情報、さらには桂川町内の業者、中小業者の広報も含めて、そういったモニターに映してみてもどうかということはまだ検討しているところではございますが、活用について考えているところでございます。

今後も、古墳まつりとの連携等も含めて、施設の活用を広げて桂川駅周辺でのにぎわい、それから町の広報、そういったのを創出してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（林 英明君） 柴田君、まとめてください。

○議員（3番 柴田 正彦君） ぜひとも、総務経済建設委員と話しながら、どんどん進めていってください。

時間になりましたので、柴田は終わります。

○議長（林 英明君） これで、午前中の一般質問は終わります。あとは1時から再開します。暫時休憩。

午前11時48分休憩

午後1時00分再開

○議長（林 英明君） 会議を再開します。

9番、原中政廣君。

○議員（9番 原中 政廣君） 9番、原中です。一般質問をいたします。

本議会では、旧穂波町、桂川町、そして旧筑穂町施設組合——これは私が勝手につけましたけども、仮称ですね——この運営管理、そして安全性について、そして吉隈3区内の内浦溜池の浚渫工事と安全性についての確認であります。

質問3では、吉隈3区内に建設予定されています産業廃棄物処理施設建設に対する井上町長の方向性について、確認をさせていただきたいと思います。

また、質問4では、教職員の時間外勤務の確認をいたします。

今、私のところにいろんな資料来ていますので、学校関係については、そのとき少しだけ読み上げさせていただきます。

それでは早速、質問1から入っていきます。

この穂波町、桂川町、筑穂町の施設、仮称ですけども、これについて正式な名称、それから解散の年度を教えてくださいたいと思います。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 名称でございますが、まず、昭和41年に「穂波町ほか2か町清掃組合」、こちらについてし尿の共同処理事務として発足しました。その後、昭和45年にごみ処理、火葬場の事務を加え、名称を「穂波町ほか2か町衛生施設組合」に変更しました。また、平成18年には合併を機に「飯塚市・桂川町衛生施設組合」に名称を改めております。

以上です。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） それでは、解散後の管理運営についてお聞きしたいと思います。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 平成31年でございますが、新たな広域処理体制を構築するために、飯塚市、嘉麻市、桂川町、小竹町を構成団体として、ふくおか県央環境広域施設組合が新設されました。事業、施設ともに継承されているものでございます。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 3、この土地にはどのようなものが埋められてあるのか、そこを確認したいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） この土地には桂川町から出ました不燃ごみ、粗大ごみ、それに加えて旧3町施設組合から出ました焼却残渣、焼却灰などになりますが、そういうものが埋められていると認識しております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 今、焼却灰等々が埋められてあるということをお聞きしました。今、桂苑でいろんな作業をされていますけど、この状態の中で当時はこの中に様々な、今だったら埋められないようなものも当時はアウトでなかったという形の中で埋められている可能性は十分あると思うんですが、その点については認識はどうでしょうか。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 確かに議員御指摘のとおり、現在ではより厳格な基準によって最終処分場というものは造られておりますので、当時としては適法であったものというので現在不適法なものが埋められているという可能性は十分にあると認識しております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） この場所は、町が許可したもの以外にも相当いろんなものが中に埋められているんですね。町長はそこら辺のところを御存じだと思いますけれども、この安全性についてどのように認識してあるか、町長のほうにお聞きしたいと思います。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 安全性ということでありまして、いわゆる状態としては、現在の状態で安定しているというようには思っておりますが、詳細については把握しているわけではございません。私の記憶の中では、たしかこの場所に火が入ったんですね。いわゆるごみの中に火が入って、それが焼けたわけですが、それを消し止めるのに非常に大変だったという記憶はございます。ですから、そういう意味ではこの中に詰まっているものについての安全性ということについては、私自身も把握しておりませんし、現状のままでは非常にこの土地の利活用という部分では難しいものがあると、そのように認識しております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 実は、この場所にこういう町の焼却灰以外にも、先ほど申し上げましたけど個人的なものが相当入っておる可能性があります。これは住民の方はほとんど認識してあると思います。間違いなく認識、職員の方でも、年齢的に私たち、町長も私たちも分かるんですけれども、それ以外の方たちはここ自体が分からないような状態だろうと思いますので、しかしながらこの場所には、今ではとてもじゃないけどアウトですよというようなものが入っているんです。だからそここのところも、今から先、町としてしっかり把握していただきたいと思えます。

それでは次に質問2、これに関連しまして、この上水を含めて、いろんな形の中で吉隈3区内の内浦溜池にいろんな水が流れ込んであるということで、私はここで今の内浦溜池の管理者について、どこがしてあるかお聞きしたいと思えます。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 内浦溜池の現在の管理についてですが、まずため池本体の堤や護岸は桂川町が管理、ため池内の水、それから泥抜きとか堤の草刈り管理、そういったものは地元の水利組合、受益者となっております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） すいません、今ちょっと聞き取れなかったもので、もう一回お願いします。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○議員（9番 原中 政廣君） ゆっくりお願いします。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） ため池本体の堤や護岸、これは桂川町。ため池内の水の管理、泥抜き、それから堤の草刈り等につきましては、地元の水利組合、受益者が管理するということになっております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） それでは、水利権者ということは桂川町ということですよね。登記名義人という形だと思います。2番目に入っていますけど、そして地番、今この質問要旨に書いてありますので、このとおりにいきたいと思います、地番と、所有権者には桂川町と。そしてこのため池の使用目的について確認したいと思います。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） まず、地番につきましては、吉隈字内浦858、ほか4筆となっております。所有者は桂川町、使用目的といたしまして農業用水ということでございます。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） これは、その水を農業用水に使うということですね。この中に今心配されているような上水が流れ込んでいる可能性も十分あるということで、今から水質検査等に入っていきたいと思いますが、最後にここを浚渫されたのは何年にされましたか。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 平成8年度に実施されております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 平成8年度にされたということです。そして、今回一番問題になりましたのは、現地に文教委員会、また議長、それから総務委員長にもお願いして、ぜひ総務経済も行ってくれ、文教も行きますからということで我々も確認してきました。そうした中で、このため池、非常に厳しい状況にあります。ペットボトルとかいろんなものが浮かんで、それとなおかつ泥がたくさんたまってあると。そうした状況の中で今総合的に一度ここをきれいに新たに掃除する必要があるんじゃないかなということで、議会のほうとしても確認しました。議会のほうの中でも、これ1回きちんとすべきですよという問題が発生しております。これについて、これは担当課長よりかは町長がいいと思うんですが、どういうふうに考えてあるか、お聞きしたいと思います。町長のほうができたらいいね。町長、いいですか。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 私もこの内浦溜池の状況は、ある程度承知はしているつもりです。そういう中でこういう農業用のため池については、今御指摘のように、管理が地元の受益者に委ねられているということもありますので、なかなか難しい点があろうかと思えますけども、再度、現地を確認して、そしてそういう有効な方法があれば検討していきたいと思えます。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） それでは、このため池の水質検査について質問していきたいと思えます。

この検査の委託先と費用と、それから検査の方法、これが分かれば教えてください。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 町では年に2回、夏季と冬季、夏場冬場に町内の河川の水質検査を実施しております。その中で内浦溜池、こちらの上流部と下流部の2か所の検査を実施しております。

委託先につきましては、株式会社エヌ・イーサポート北九州支社となりまして、費用は検体採取、分析まで含めまして、13か所の2回分ということで、令和5年度の委託料は23万780円となっております。

検査の報告につきましては、採取後30日以内に町のほうに報告があるようになっております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 年に2回ということですね。そしてこれに費用が23万前後かかるということと、報告は30日以内に桂川町にあると。以前、私のほうから課長のほうにこういう現状があるから心配だということで、実は検査はどうしていますかということで文教教員会の中でもお尋ねしました。そのときに課長の答弁としては、施設組合に聞いてみましようというようにそういう回答を頂きましたので、ちょっと今その違いがあるんだけど、どういうふうに理解したらいいですか。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） すいません。町と別に、施設組合としましても内浦溜池の水質検査を2年に一度、ダイオキシン類の調査を実施をしているということでございます。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） そういうことになりましたら、ダイオキシンは施設組合でして、ほかの検査の中身としては、やはり同じダイオキシンを中心にした検査になるわけですか。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 町のほうの検査では一般的な水質検査になりまして、pHとか、BOD、COD等、汚濁度とか、そういうふうに多種の一般的な水質検査というものを行ってお

ります。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） すいません、ちょっと分からないのでお聞きします。ということはその検査は、普通水道水やったら、前、濁り水の時水道水の検査やらしたやないですか。あれに似たような状態の検査ということになるんですか。分からなかったらいいですよ。大体そういう検査ですか。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） すいません。ちょっと水道のほうの検査になるので、ちょっと分からないもので……。

○議員（9番 原中 政廣君） そうか、その検査だけでいいです。

○保険環境課長（永松 俊英君） 河川の調査とかいうのは、大体このような項目を調査するものというところになっております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） これを、水質検査なんですけど、私、23万かかるということとしていただいと。ということは、施設組合も検査してある。町も検査してある。ほかのところはあんまりそういう検査対象には入っていないと思うんですけども、この検査されてあるということは、基本的にやはり検査する必要性を町も感じてあると思いますし、ふくおか県央も感じられているんだということを、それはどういうことになるかといいますと、もともとその上水が、川でいったら右岸と左岸という形で、大将陣から真っすぐ右手に桂川町の水路が入っていますよね。左側にたしか道路側溝かな、ああいうのとかが入って、全部です。私は、基本的に水路の水だけが内浦溜池に入るという考え方を持っていたんですね。だから上水も本来は道路を越えて、大雨が降ったら越えるんですね。そうした面では当時からずっと入っておると考えていたんですけど、今回初めて現地へ行っていろいろ調べてみたら、道路側溝の部分も一時真っすぐ走るけど、途中からどんとこの内浦溜池に入っていくというような水の流れになっているんですね。そうした中で非常にあの一带に、危険とまで申し上げていいかどうか分かりませんが、心配な要素が含まれているんじゃないかなというような気持ちで今回、1回この際、泥もたまっておるし、1回きれいにして、あの一带を環境をきれいにしていただきたいなというような思いでおります。

それでは次、5に、この内浦溜池の景観、見た目。見た目は非常に大事なんですね。見た目でもやはりこう、あまりにも前回ひどかったものですから、その点はどのように考えてあるか、お聞きしたいと思います。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） 議員御指摘のとおり、ため池のふちにはペットボトルやカップ

麵の殻とかなどが散乱していることは確認しております。また、周辺道路につきましても、弁当殻とかコーヒーの容器等が不法投棄されているところはございますので、町としてはパトロール委託もしておりますので、ちょっと重点区域として不法投棄の回収とパトロールに努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） ぜひお願いしたいと思います。

そういった中で、あそこ桂川町の土地もあるんですけど、桂川町の土地自体も大分ごみが捨ててあるんですね。捨ててあるんですよ、間違いなく。一緒に見てください。だから間違いなくある。桂川町の土地にごみを捨てられてそのままにしておくのもおかしいし、一つお聞きしたいんですが、このパトロールの重点区域と今言われたですよ。この中に今までは入ってなかったのかな。今後、重点区域にするということ。重点区域にされてあったとしては、あまりにも無残。今からやっていただけるということに私は理解したいんですけど、どちらですか。今の回答の中でよく分からなかったんですが、確認しましたと、そしたらもう行政としても、これ重点区域として、例えば、ちょうど私、吉隈出身なんですけど、あそこの吉隈の交差点からずっと上がる道ありますよね。あのラインから体育館を越えてからがちょっと厳しくなっておるんですね。あの一帯もそうなんですけども。結構捨ててあるんですね。だから今まで重点地域として見ていなかったとしたら、今後きちんとそこら辺のラインを見ていただけるものなのかな、それとも今まで重点地域だったけどできていなかったのか、そこをちょっとお願いしたいと思います。

○議長（林 英明君） 永松課長。

○保険環境課長（永松 俊英君） これまでも、あそこ——体育館の上の通りですね、あそこにつきましても、不法投棄結構ありまして、水路に投げ込まれるという事案は多々ありました。それから回収を重ねるたびにだんだん減ってはきておるところなんですけど、最近また増えているという状況でございます。ですので、委託業者のほうにも周知をするとともに、町の職員としても、現地近くを通ればそこを通ってみるというような形で対応していきたいと、そのように考えております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） さきにも申しましたけれども、やはりこの地域をしっかりときれいにしていただくことが大事だと思いますし、本当の私の気持ちとしては、ため池に流れ込んだ水あたりをきちんと整理するとが次の課題に入っていきます産業廃棄物施設建設に関する町の考え方、我々がきちんとしていなかったら外部が入ってきたとき、あんたたち、自分たちもしていないやんと、そのような感覚で捉えられることがありますし、しっかりといろんな調査というのは私は何かが起こる前に調査して、自分たちの基準を持つといて、その中に例えば外部からいろんな

ものができたときに数値の大綱とか要件とか、そういうものが出てくるだろうと思うんですね。だから行政としてもそのようなものをしっかりしていただきたいのと、こういう検査あたりも本来からいけば、検査結果を地元流したりはしていないと思うんですね。だからそういう検査の結果を早めに流すとか、これはこんなとも町のサービスの一環としていいと思うんですね。それとか例えばため池の水をくんで検査に出すときは地元をちょっと中に入れて、どのような採取水を取って検査してあるのかと、そのような対応は意外と、細かいことなんですけども、そういうのが私は信頼関係に携わってくると思います。今本当に非常にここは私の気持ちとしては、きちんと1回整理、泥もたくさんたまっています。もう上まで来ています。町長はまだ、ここ現場見えていないんですね。現場、見ましたか。見たか見らんかだけ。どうぞ。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 先ほど言いますように、内浦溜池そのものはよく知っていますけれども、ただ、今言われている現場というのが、ちょっと一概に同じ場所を指すのかどうか分かりませんので。

○議員（9番 原中 政廣君） 分かりました。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） 町長、見に行ってください、現場。非常にもう相当、大分片づいたんでしょう。まだ現状のまんま。いやいや、いいです。現場に行ってみて今の状態、ペットボトルあたりは片づいとると思いますけれども、それと町長、この内浦溜池に関するものは、ただ単純にペットボトルがあるとかいうことだけじゃないで、歴史があるんですよ、ここ。あそこに実はこういう組合をつくる時に、地元、賛同していないんです。今で言うたら桂川町の土地ですね。あそこの中に強制的というか、表現の仕方はおかしいんですけど、流れ込むようにしてあられに捨てていったと。その後の維持管理は、正直言ってずさんだったんです。今行ってもらったら分かります。鍵1本、私たちもあそこ何回も入ってきて、女性の方と男性の方が一定の感じで、その分ざっと上積みされていました。そうした意味では、当時こんなに環境に厳しくない時代、今先ほど申されていたように、ざっといこうかというような時代でしたので、今やったらほとんどアウトと思います。そういう時代を経由して、今なおかつ桂川のあの土地、見かけも悪いし、あそこにガソリン缶とかタイヤとか、まだ見えるんですよ。だからあそこをもう少し何らかの形で、私、科学的なことは分かりませんが、きちんと整理してきれいな場所にする。大將陣公園からずっとあの一带はやっぱりきれいにする必要があるし、そのためには全体像を何らかの形で町としても、だからぜひため池をきれいに掘り上げて、きれいな水で1回スタートしていただきたいと思います。基本的にはあの大將陣公園がある山は大山ですから、水としてはきれいな水が流れてくるだろうと思うんですよ。でも今実際に汚れているということは、何らかの要素が

入ってきておるから、そういう問題が起こってきてるんだらうと思いますので、町長にはこれぜひともきちんと浚渫工事をお願いしたいと思います。

それでは、質問3に入っていきたいと思います。

これも非常にあれなんですけど、産業廃棄物処理施設の今後の桂川町の対応について、これはあくまでも今度新たに吉隈3区内に建設されようとしています。これについて質問です。

実は昨日、吉川議員と大塚議員の質問で、今日も柴田議員がされたんですけども、一番大きな問題としては、町長の言葉の中に「個人的には反対ですよ」という文言が入ってきていますね。ここ物すごく、私一番大事な部分と思う。それとか大塚議員の質問に対しては、住民の意向などきちんと確認せんと軽々には判断できん、表明できないというようなことあるんですけども、もう一定の時期が来ているんじゃないかなと思うんですね。だから私としては、井上利一さん自体の反対の表明よりかは桂川町長としてのリーダーとしての方向性、私は、個人的じゃなくしてリーダーとして、我々も議会もそうなんですよね。実は議会から選出されて、個人はいろんな考え方、皆さんあるんですね。しかし桂川町議会議員としてはこれは反対せざるを得ないというような方が多いんじゃないですか。現実的に絶対的賛成じゃないという人もおられたんですね。でも議会として一丸となって、できる限りね。ただ、今、福岡県あたりの認可事業に特化して考えたら、許認可が出たと、県の仕事だということなんですけども、今議会あたりが求めているのは、そのことに対抗しようとしているんじゃないんですよ。住民の権利、町の権利、所有権、そのようなものに対して、相手ときちんと対抗できるようにやりましようよということが大きい。県あたり、自分のところの仕事として許認可権、鉱業権とか、それとかいろんなこんな産廃の問題とか、砂土跡地の問題とか、いろんなもん出していますけど、話しに行ったとき、ポイントは一つ。問題なかったら認可します。そしたらあとは責任どこが取るんですかちうたら、これは民と民の問題ですよとされています。何ともそれ、腹が立つけど、そういうところが普通おかしいですよ。許認可した人が、これはちょっとあれになりますけども、認可した人たちが責任取らんで、例えばあんたたちけんかしなさい、けがしたらたたき合った人たちが悪いというような感じで、これ実はおかしいんです。でもこれは今、国からいろんな形の中で出ておるから、そこそこで仕方ないといったらおかしいけど、思うんですけども、私たち町村においてはそれを戦う力あるんですよ。だからそこら辺をしっかりと町長には表明していただくのと、まずそこで最初に町長の、私ちょっと失礼なことを言いましたけども、本当一生懸命なんですよ。それと区長さんとかいろんな方とかいろんなところで話されていますよね。町長がこれ反対しますよって言ったら、みんな手たたくよ、こうして。よかったち言う。そのときに一部では、いや個人的にはという言葉が出ると。町長としてはどうなんだというような問題が出て、それは今回私がきちんと確認します。そのような問題もきちんと話し合いをしました。そこで町長のほうにはできたら、つくることに対

して反対せえちいうんじゃないで、町の持った権利、住民の持った権利に対して戦う姿勢があるかどうか、その点を町長にお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 多分、前回のときにもお話ししたと思いますけれども、私自身、住民の皆さんとの連携を取りながら進めていくということを申しております。私のほうで勝手に何かをするということはありませんので、あくまでも住民の皆さんの目線に立った上で取り組んでいきたいと考えております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） そこら辺がちょっと分かんないんですけど。私もね。

今から次の2にちょっと入りますけれども、その中で議会として実は弁護士お二人にお会いしてきたんですね。その中で早く対応が必要ですよというのが認識、二人とも一緒だったんです。そのときに市川弁護士なんかはこう言われるんですね。できるだけ早くチームをつくりなさいと。弁護士でも日弁連の関係とか、福岡県の弁護士会がある、そこでこうしたことに特化した人たちを弁護をお願いできる、相談できるような体制をつくったらどうですかと。そしてなおかつ今、町長も御存じだと思いますけど、八尋先生からレクチャーを受けましたよね。ああいう部分はそういう人たち、あらゆるところの分野の力を結集する。行政判断するのは町長の力が要る。それに賛成するのは議会の判断が要る。そうしたものを合わせて、戦うというのはちょっと表現がおかしいかな、頑張っていけないといけませんよと。後手後手は駄目ですよ。先手先手で。それともう一つ、一番大事なのは、職員も大事なんですよ。例えばここに、例えば副町長が担当されたらと。相談行く相手がしっかりした判断できるところ、例えば空気の問題だとか、もし裁判になったときは弁護士の問題と、こうなったときにそういうチーム、それとか九工大とか、福岡県立大学とか、そういうふうな専門知識を持った人と連携して、そこに素早く。だから一遍で片づく問題やないから少しずつ少しずつ、この問題があった、この問題があったと出てくるから、それを一つずつ早く対処することが行政的にも議会的にも大事だ。正直言って、議会、こうした特別委員会をつくらせていただいて、一つも打つ手がないんですね。相手のまだ出方も分かりませんが、打つ手がないのが本当だと思います。そうしたものには町長の決断というのが非常にそこができれば、また力も湧くし、相談体制もできるし、どんな問題が出てきても私は戦えると思うんですね。だからそこら辺のところを私はぜひ弁護士等に行政として、費用どのくらいかかるんですかと聞きましたら、そんなにでもないんですね。50万から100万ぐらいきちんと指定すれば、若手でばりばりで、こうしたものを中心にやりたいという人もたくさんおりますよと。お金の問題だけじゃないで、やはりそういうことをしっかりやることを目的にした弁護士も、そういう方もしっかりおるから、そこら辺のところを模索したらどうですかというような話も実は市

川弁護士のほうからは頂きました。だからそういう面から議会だけの考え方じゃない、いろんなところで私たちも一生懸命努力しながら見つけてきた、ここが一つの壁なんです。この壁を破るためには、町長がきちんと議会をバックアップしてくれないとこの壁破れないんですよ。破れない。そういう面から町長にはこの弁護士人を含んで専門家のチーム編成、専門家といってもいつも来て会話してということやないで、そういうことができる体制、職員が相談できる体制、安心して行政的な仕事ができる体制を町長にぜひお願いしたいと思うんですけど、この点、一番今日、私が楽しみにしておる町長の答弁なんですけども、よろしく願いいたします。

○議長（林 英明君） 井上町長。

○町長（井上 利一君） 御指摘の点は、いわゆる同感であります。なかなか難しい課題も含んでいるとは思いますが、私自身も専門家の知恵を借りないことには対応はなかなか難しいと考えています。ただ、例えば弁護士にしてもやっぱりこういったある意味、専門分野といえますか、その専門分野の適した方でないと中途半端な、物の言い方はおかしいんですけども、いわゆるお金になるからという形の取組だと何の成果も上がらないということになります。ですから、仮にこの専門チームをつくるにしても、やっぱり軸になる人がどうしても必要だと思っているわけですね。そういうことからしますと、私自身は本当に、そういう意味で適当な方がおられればぜひ連絡を取って、そして前向きに進めていきたいとそのように思っています。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） すばらしい回答を頂きまして、ありがとうございます。私もまさしくそのとおりだと思います。町長との関わりの中で裁判といえば一度ありましたよね。裁判。そのときに弁護士を替えてやった。もう中身言いません。町長、あうんの呼吸で分かるでしょう。私も行ったんですよ。別途口で、弁護士に会いにですね。そうしたときに福岡から最終的には呼んできて、そこで片づけた。非常に大変なんです、弁護士。だから今回行ったお二人も、私にさせろとかは言わんとですね。柴田委員長からいろんな質問あった中で、ここに特化したとをそういう人を選んでもらいなさいと。普通弁護を頼みに行ったら自分のところに来るように来るよととかいうことも、このお二人はすばらしかったですよ。いやいやこの問題は、日弁連を通じてそれに特化した人がやる。だからこれを町長のほうで選任していただくのは、我々が選任するわけじゃないから、町長と副町長と担当課長か何かで選択されて、この弁護士に頼もうよと。費用的なものもあると思いますんで、そこでやろうということやっていただければ、先ほどちょっと曖昧な答えありましたけれども、その部分も少し払拭できるんじゃないかなと。これはやれると。そしたら議会も徹底して応援しますし、職員も頑張れると。これは、ちょっと講釈言うんですけど、共通した弁護士のお話と色々な方の集約でありますので、町長、よろしく願いします。

それでは、次に学校での教職員の勤務状況についてということをお聞きしたいとさせていただきます。

実は何でこれ急に出てきたかと申しますと、署名用紙が私のほうに届いてきて、相当の枚数来たんですね。学校の大ピンチを救うための緊急署名に御協力をということで来ました。その中で、ちょっと読みますね。日教組、2023年学校現場の働き方改革に関する意識調査では、教職員の1か月平均の時間外労働時間は96時間、中学校教職員においては116時間と。過労死ラインの時間外勤務の60時間をはるかに超えていますよというような問題が来ています。これに対して緩和できるように署名活動をやってくださいということで出ているんですけども、これに関して桂川の場合はどうなりますか。結局この時間数と変わらないような状態ですか。それとも桂川は大丈夫よ、きちんと守れていますよという話でしょうか。その点についてお聞きしたいと思います。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） まず、本町の学校管理規則というのがございまして、教育職員の時間外勤務の上限として、1か月について45時間、1年について360時間と定めております。各学校では、現在、校務支援ソフトを活用して客観的に勤務時間を把握できるようにしています。文部科学省が昨年4月に公表いたしました教員勤務実態調査が示すように、本町の小学校では年々この超過勤務の時間が少なくなっておりまして、今年度2月現在では30時間台という形になっています。

しかしながら、中学校におきましては、やはりどうしても年度初めであるとか、中体連の大会、そういった開催時期においては、月の平均が45時間を超えている月が5か月ほどございます。

このことから考えますと、教員の働き方改革が十分に進んでいるとは言えない状況だと思っております。

今後も引き続き、全ての学校に、校務、そしてまた学校行事の見直し、会議の見直しでICTを活用したペーパーレス化、特に学期末、成績処理等々がございまして、そこはICT活用をしていくなど、校長会とも連携してこの働き方改革を進めてまいりたいと思っております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） ありがとうございます。

それでは、今答弁では45時間ということですね。そして桂川の3校では、十分これが守れているということの認識でいいんですね。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） 小学校のほうは大丈夫ですが、中学校がなかなかまだそこまで至っていないというところがございます。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） そしたら、ここに出ておる数字まではいっていないということですね。桂川3校で一定の方向で。よそはひどいですね。これ116時間とかね。これ、めちゃくちゃですね。こうした問題に対して、先ほど言いましたように、教育委員会あたりでこういう論議がされて、私もちょっと今分からなくなっているんですけど、教育委員会で一定のこの方向性を例えば、今教育長が言われる45時間以内に収めるように学校側に申し伝えようとか、そういう論議になるやないですか。これに対して、結局それはどういう権限になるんですか。昨日ちょっと気になったのが、実は生理用品の関係で吉川議員がされたときに、いや、これは教育委員会から言う問題じゃないですよ、学校の問題ですよというような答弁で、今までずっと何となく、いや、それは要りませんか何とかという言い方できたんですが、最初からそういう答えをもらっておけば、吉川議員も何回も同じ質問をせんでも、結局もう学校側の問題であれば、教育長とか平井課長には何も問題ないわけですけども、ちょっと話変わります。こういう問題、教育委員会の中でこの時間的な問題が出たとき、教育委員会として、学校側に対して、ちょっと長いよと。もう少しきちんと整理しなさいとかいう、そういう論議はあるだろうと思うんですね。そういう問題を例えば校長、教頭、一つの管理職側にこうじゃないかというような問題提起でできるだけ職員の皆さんをある程度、教育長が努力されておる数値まで持って行ってくれというような話ができると思うんですけども、教頭、校長の場合は若干、今度は自分がそこを、いろんな子供たちの成績の問題とか、いろんな問題があるからできるだけ、逆を言えば教員の皆さんには協力してもらいたいというのはそれはもう行政も一緒だと思うんですね。そのところはどうかね。教育委員会としてこれやってくれというような申出をすることが、我々は今まで教育現場不介入というような形で議会のほうもあまり入っていなかったんです。ところが柴田委員長は学校出身ということで、いろんな問題が出てきまして、一定の協議とか話合いとか、お互いに意見交換等しながら、教育現場のほうに介入するようなことは私はしていないと思います。一定のルールを守りながらやっていると思うんですけども、そこら辺のところ、学校側とそういう関係は非常に微妙な問題と思うんですけど、どのように理解したらよろしいですか。

○議長（林 英明君） 大庭教育長。

○教育長（大庭 公正君） 市町村の教育委員会の業務としましては、服務管理というところが主なものになっておりますので、当然ながら教員の超過勤務については服務の問題ですから、これは私ども教育委員会の業務の大きな一つであります。この教員の働き方改革というのは、教育職員の業務量の適正な管理、そして健康及び福祉の確保を図る、そのことが学校教育の水準の維持向上に資するものとして、現状から考えますと教育委員会といたしましては、この超過勤務の問題については、喫緊の課題というふうに捉えております。

○議長（林 英明君） 原中君。

○議員（9番 原中 政廣君） ありがとうございます。少し安心しました。桂川町では教育委員会と学校現場と、一定のルールを守りながらこの超過勤務をできるだけ抑えながら、対応できるような調整が図られてあるというような理解でいいですね。ありがとうございます。
終わります。

○議長（林 英明君） これで、一般質問を終わります。

日程第2. 議案第11号

○議長（林 英明君） 次に、議案第11号令和5年度桂川町一般会計補正予算（第5号）についてを議題といたします。

本案については、総務経済建設委員会、文教厚生委員会に付託しておりましたので、委員長の報告を求めます。竹本委員長。

○総務経済建設常任委員長（竹本 慶吉君） 議案第11号令和5年度桂川町一般会計補正予算（第5号）について、総務経済建設委員会の審査結果を報告します。

当委員会に関する主なものは、歳入予算では、11款地方交付税において、普通交付税の追加計上がなされています。なお、本補正後の普通交付税留保財源額は5,462万3,000円となっております。

15款国庫支出金においては、7月の梅雨前線豪雨被害に係る公共土木施設災害復旧費国庫負担金が、補助対象事業費の減に伴い、減額計上されています。

16款県支出金においては、千代ヶ浦溜池改修に係る農業農村整備事業費県補助金が追加計上される一方、先ほどの国庫支出金と同様に、農林水産業施設災害復旧費県補助金の減額計上がなされています。

22款町債においては、千代ヶ浦溜池改修に係る国土保全対策事業債や県施工の七浦溜池改修に係る防災重点農業用施設整備事業債が追加計上される一方、対象事業費の減に伴い、農地・農業用施設補助災害復旧事業債及び公共土木施設補助災害復旧事業債の減額計上がなされています。

歳出予算では、2款総務費において、西鉄バス筑豊株式会社の路線バス碓井線27番線の運行に係る赤字補填額の決定見込みによる西鉄バス路線運行補助金の追加計上や、戸籍氏名のふりがな対応に係る戸籍の附票システム改修業務委託料の追加計上がなされています。

6款農林水産業費においては、農林環境譲与税の本年度交付予定額と、これを財源とする林業振興費森林調査業務委託料との差額が、森林環境整備基金積立金として追加計上されています。

11款災害復旧費においては、補助対象事業費の減に伴う減額計上がなされています。

当委員会は、審査の結果、当委員会に付託された案件については、原案に全員賛成であります。

以上、報告を終わります。

○議長（林 英明君） 続きまして、柴田委員長の報告を求めます。

○文教厚生常任委員長（柴田 正彦君） 当委員会に関する主なものは、歳入予算、15款国庫支出金において、私立保育園等に係る子どものための教育・保育給付費国庫負担金、一時預かり事業費国庫負担金及び性被害防止対策に係る整備等支援事業費国庫補助金が追加計上されています。

16款県支出金においても、子どものための教育・保育給付事業及び一時預かり事業に係るものが追加計上されています。

歳出予算では、3款民生費、総合福祉センターの白アリ防除委託料や私立保育園等に係る子どものための教育・保育給付費、一時預かり事業補助金及び性被害防止対策に係る設備等支援事業補助金のほか、飯塚市、嘉麻市と共同実施されています定住自立圏幼児保育事業負担金が追加計上されています。

当委員会は、審査の結果、当委員会に付託されています案件については、原案に全員賛成です。

○議長（林 英明君） これより質疑を行います。委員長の報告に対し、質疑ありませんか。吉川君。

○議員（6番 吉川紀代子君） 総務委員長にお尋ねします。

先ほど説明のありましたときに、この西鉄バス路線運行補助金が計上されていると、その報告だけでありました。私がお尋ねしたいのは、この西鉄バス路線運行補助金がどうして上げられたのか、そこのところを総務委員会ではどのように論議されたのか説明を求めます。

○議長（林 英明君） 竹本君。

○総務経済建設常任委員長（竹本 慶吉君） 要点といたしましては、補助金の額についてのお問合せですか。吉川議員、もう一度ちょっと。

○議長（林 英明君） 吉川議員。

○議員（6番 吉川紀代子君） 額云々もそうですけれど、なぜ、当初大体この西鉄バスに補助金というのは毎年上がっていると思うんです。しかし新たにここに補助として追加補助金が上がっているわけなんですよ。なぜ追加補助金が上げられたかということが総務委員会で論議されたかどうかということをお尋ねしております。

○議長（林 英明君） 竹本委員長。

○総務経済建設常任委員長（竹本 慶吉君） ただいまの御質問にお答えいたします。

一応この運行に係る赤字補填額の決定見込みによるという、先ほどの私の説明がありましたけれども、このとおりでありまして、従来この西鉄が運行してきておりますバスについては、一応廃止という形のものがあったわけですね。その廃止を西鉄のほうと協議した結果、現在これを運行していくと。その費用については桂川町のほうで負担をしていくということになってきている

と思います。

内容的なもので差額が出るということの起因としましては、やはり現在の燃料費の高騰とか、それから人件費の高騰というような西鉄の事情もあつてのことだろうと推測されますので、これを廃止するというような結論というのは桂川町にとって非常に困ることではないかというふうに思います。特に27番線ということになりますか、これについては、本町にあります総合高校の通学生というのが非常に利用の頻度を高めていると。この補助金を桂川町のほうで面倒見切れないというようなことになってくれば、元に戻って、また廃止というようなことにも変わってこなければいけないのではないかなと、そういう実情というのもお考えいただければ幸いかというふうに思っております。

私の説明、ちょっと足りませんでしたかどうか分かりませんが、以上の経緯で総務経済建設委員会としては、やむを得ないということで全員一致で承認しております。

○議長（林 英明君） 吉川議員、いいですか。

○議員（6番 吉川紀代子君） いろいろと説明をなさいましたけれど、私が理解といいますか、この当初、大体赤字だから西鉄に補助金を出すということで予算は組んであると思うんですね。しかしそれに追加で上げられた理由を問うたわけです。しかし今いろいろと言われて、私があれしたのは、結局、燃料費が上がったと、そういうことで追加計上がなされたというふうに私は理解しました。

○議長（林 英明君） ほかに質疑ありませんか。柴田議員。

○議員（3番 柴田 正彦君） ページ、22ページです。森林環境整備基金積立金に135万4,000円が入れています。当初予算が232万4,000円だったと思いますので、合わせて367万8,000円になります。この基金は、今後どんなことに使う、使っていったらいいとかという話し合いは行われたんですか。また、どんなことに使うかという説明はありましたか。

○議長（林 英明君） 竹本委員長。

○総務経済建設常任委員長（竹本 慶吉君） その点につきましては、当委員会のほうで説明はありましたけれども、特に質疑応答というものはございませんでした。

○議長（林 英明君） よろしいですか。

○議員（3番 柴田 正彦君） ごめんなさい。特に内容的に何も問題はなか……、だからこの積立金をどうするのでしょうか。

○議長（林 英明君） そういうのはなかったということでしょう。

○総務経済建設常任委員長（竹本 慶吉君） それしかないんですが。答えようが。

○議長（林 英明君） よろしいですか。

○議員（3番 柴田 正彦君） はい。

○議長（林 英明君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） これで質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。吉川君。

○議員（6番 吉川紀代子君） 日本共産党の吉川紀代子です。

この議案11号に反対の立場から討論に参加をいたします。

この11号議案書には、地域住民の利便性に逆行する西鉄バスへの追加補助金が計上されております。先ほど説明がありましたけれど、私の元に届いております。最初から西側の方からも言われました。西鉄バスがなかなか不便だと。それなのに減便すれば余計使いにくくなっているということが、最初の方にこの西鉄バスを廃止するといったときにそういう声が寄せられました。そして私たちが住んでいる東側の住民からは、私たちの地域は廃便になっていると、ゼロなんですよ。何で私たちの税金の一部が西鉄バスに補助金出さなくちゃいけないんだ。むしろ西鉄バスが桂川の町民が困るだろうからといって増便、1便でも2便でも増やしてくれるのでそのために赤字の補填だったら納得できるけれど、廃便、東側はゼロなのに何で私たちの税金が投入されなければならないのかというような声が上がっております。それで私は、この住民の利便性に欠けているというふうに思います。逆行している西鉄バスに何で桂川町の税金を投入しなければならないかということで、私は反対をいたします。

○議長（林 英明君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） これで討論を終わります。

反対討論がありますので、これより議案第11号を採決します。起立により採決いたします。

本案は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（林 英明君） 起立多数であります。したがって、議案第11号令和5年度桂川町一般会計補正予算（第5号）については可決することに決定しました。

ここで暫時休憩いたします。再開は15分から。

午後2時05分休憩

午後2時16分再開

○議長（林 英明君） 会議を再開します。

日程第3. 議案第12号

○議長（林 英明君） 議案第12号令和6年度桂川町一般会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。大塚君。

○議員（5番 大塚 和佳君） 何点かあるんですけども、まず、駅の関係。先ほど柴田議員の関係で道路なんかを計画されるということでもございましたけども、その経費がどのくらいかかるかと、それと駅舎の観光案内図、一応、私一般質問を聞いたときには今年度中するというところでもございましたけども、全然されておりませんので、来年度、予算どんぐらい組まれるのかなど。

3点目は、駅舎の管理の関係でこれは毎年聞いているんですけども、あの支出が全体的にどんなもんかと、それと起債の関係で、当初の起債と、駅を建てるときは十何億円あったと思いますけど、それと今の残額と償還金額と、あと償還年。駅関係、一応それとあと一つ、ゆのうら体験の杜の歳入と歳出と、先ほど言いましたように起債の全額と、先ほど言います起債の残額と償還額と、あと何年残っているか、分かる範囲でお願いします。分からなければ、次回でまた報告いただければいいんですけど。

○議長（林 英明君） 誰が行きましようか。原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 駅舎関係の予算について154ページの内容になるというふう

に判断しております。
駅舎というより、初めに豆田・瀬戸線の予算の計上でございますけれども、桂川駅から北側、王塚古墳に出る道路の部分につきましましては、今の154ページの下から、8款2項3目12節の委託料の1,300万円のうち、800万円が豆田・瀬戸線の測量設計費並びに補償の調査費を計上しております。残りの500万円は、土居・瀬戸線のこういった設計並びに補償調査費ということになります。それで駅の関係の委託費用につきましましては、中断の部分の上の12節の8款2項2目12節に書いてある内容で、本年度につきましましては、桂川駅鳩対策事業費93万1,000円を追加、昨年とプラスで計上させていただいております。この鳩対策費につきましましては、たくさんの鳩対策をしたんですけども、南側のエレベーター棟のほうに今度は鳩が寄って来て、その部分に大量のふんを落としているということで、これを対策するために、93万1,000円を計上しております。ほかは昨年度同様の予算計上でございます。

なお、桂川駅自由通路にかかる償還金の件ですけれども、今ちょっと急な御質問でしたので、今ここでこういった資料の持ち合わせはしておりませんので、よろしく願いいたします。

○議長（林 英明君） よろしいですか。大塚君。

○議員（5番 大塚 和佳君） 鳩対策っていうのが、何年か前からされていると思うんですけど、これまた来年度というか6年ですけど、7年度もずっと何年も続けるということではないんですよ。分かりました。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 桂川駅関係の管理の関係で、産業振興課のほうから回答させていただきます。

予算書の149ページをお開きください。

7款1項3目観光費の12節委託料で59万4,000円を計上しております。これは観光案内所Keisenまちプラザの管理を計上しております。これは昨年同様の額でございます。その下、使用料及び賃借料のところでは4万7,000円、賃借料を上げております。これはKeisenまちプラザの自動ドアの前にあるマットのリース料4万7,000円、昨年同様計上させていただきます。

以上でございます。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） ゆのうら体験の杜の収入でございます。総合キャンプ場と合わせましてになるんですが、予算書34ページ、14款1項5目土木使用料の、2節都市公園使用料うち、ゆのうら体験の杜施設使用料84万円、ゆのうら体験の杜キャンプサイト使用料151万6,000円、湯の浦総合キャンプ場使用料9万6,000円の合計205万2,000円となります。

歳出につきましては、予算書の157ページ、8款3項3目公園費1,493万3,000円のこのうち数になるんですが、総額で954万4,000円計上しております。

起債関係の分につきましては、手元資料ございませんので、後ほど別途回答したいと思います。

○議長（林 英明君） 大塚君。

○議員（5番 大塚 和佳君） 駅舎関係も建設事業課と産業振興課ということで別なところでございますので、議員とすれば駅舎の関係でどういうのがなっているかということがございますので、一覧表にして、起債とか全部こう今聞いた分を一覧表にさせていただければ、今から先、総務が要するにされると思いますけども、文教の私たちもよく分かると思いますので、ぜひ一覧表で出していただければと思います。

以上です。

○議長（林 英明君） ほかに質疑ありませんか。吉川君。

○議員（6番 吉川紀代子君） 16件ほどありますので、すいません、3回に分けて質問させていただきます。

まず、68ページ、69ページ、70ページ、71ページ、73ページ、76ページまで質問いたします。

68ページ、2款1項1目4節常時勤務会計年度任用職員共済組合負担金76万5,000円

と、その下に退職手当組合負担金35万3,000円と書いてございます。これは、ごめんなさい。その上の最初のほうはいいです。共済組合ということなので、最初、私は労働組合かと思っていたんですけどこれ外します。それで2番目に聞いたところで、退職手当組合負担ということなんですけれど、この会計任用職員ということですけど、これはフルタイムの方だけのことでしょか。

○議長（林 英明君） そこだけ。

○議員（6番 吉川紀代子君） 言っているんですか。

○議長（林 英明君） 6か所ぐらいあるんでしょ、最初は。

○議員（6番 吉川紀代子君） いまのとでしょ、そしたら次、69ページの質問していいんですね。

○議長（林 英明君） いいですよ。

○議員（6番 吉川紀代子君） 69ページに、12節役場事務一部（日直）業務委託料と書いてございます。あの宿直だったら分かるんですけど日直って書いてあるので、どういうことをしたのか、どういうことなのかということをお尋ねしたいと思います。

次に、70ページ。70ページは2件ほどあります。13節で賃借料が214万7,000円。

次に、18節新規採用試験負担金44万4,000円。

それから、次が71ページ。4目の役務費448万4,000円、手数料として書いてございます。

これと、次が73ページ、12節、下のほうに土地境界確定測量委託料400万円、その下に、また土地不動産鑑定委託料100万円、このこと。

次に、76ページ、9目3節短時間勤務会計年度任用職員勤勉手当13万2,000円。ここまでで第1回の質問。

○議長（林 英明君） 分かりました。では、誰からいきましょうか。横山課長。

○総務課長（横山 由枝君） まず、68ページ、2款1項1目4節の常時会計年度任用職員の退職手当組合負担金につきましては、フルタイム職員になっております。

続きまして、69ページの12節委託料の役場事務一部（日直）業務委託料につきましては、土日祝日の8時半から5時15分までの日勤帯でお手伝いいただいている方の委託料になっております。その下の宿直につきましては、夜間帯のお泊まりのお手伝いになっております。

新規採用職員負担金につきましては、試験をする際の負担金になっておりますので、来年度はまだ未確定であります。予定として計上させていただいております。

76ページの短時間会計年度任用職員の勤勉手当については、これは勤勉手当を払うということで予算を計上しております。

大体これで終わっておりますか。

○議長（林 英明君） 原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 73ページの2款1項5目12節、一番最後のほうの土地境界確定測量委託料400万円、また、その下の不動産鑑定委託料につきましては、公有地の売却をちょっと今は定例的に行っておりますけれども、これの確定測量、土地を入札で売り出す前に確定測量をする測量委託料、また、それにかかる土地の鑑定委託料を100万円計上させていただいております。

○議長（林 英明君） 終わりですかね。北原課長。

○会計管理者（北原 義識君） 71ページ、2款1項4目会計管理費の中で448万4,000円の手数料についてでございますが、これは主に現在、会計室のほうに福岡銀行のほうから派出をしていただいております方の手数料、またコンビニスマホの代行手数料を合わせまして、今回新規といたしまして、来年度10月から公金の取扱いの手数料が新たに発生しますので、この分を計上させていただいております。失礼いたしました。

○議長（林 英明君） 終わりましたかね。また分からなかったら、後から聞いてください。

○議員（6番 吉川紀代子君） いいですか。先ほどの答えていただきましたけれど、70ページ、新規採用試験負担金というのは、どこかにこの試験をするところを頼むんですか。役場の職員さんを雇うときに試験をするところをどこかに頼むんですか。私、役場の中でやっているのかなと思っていたんですけど。

○議長（林 英明君） 横山課長。

○総務課長（横山 由枝君） 自治振興組合のほうに委託して、テスト内容等を作成してもらっております。（「試験問題ですか」と呼ぶ者あり）はい。試験問題等をそちらのほうに委託しております。

○議員（6番 吉川紀代子君） それとあと一つ。その上で、私、確かこれ賃借料の24万7,000をお尋ねしたと思うんですけど、それを答えていただけてないんですけど。

○議長（林 英明君） 横山課長。

○総務課長（横山 由枝君） 使用料につきましては、まず有料道路の通行使用料や公用車の駐車場代の使用料を上げております。併せまして採用試験を実施する際に、県立高校等を使用した際の会場使用料を入れております。賃借料につきましては、コピー機のリース代やファクシミリのリース代そういうものを計上しております。

○議長（林 英明君） よろしいですか。じゃあ、次に行ってください。

○議員（6番 吉川紀代子君） そしたら、次に、78ページ、84ページ……。

○議長（林 英明君） あと全部言うってください。

○議員（6番 吉川紀代子君） 78ページの12節でC I Oというんですかね、C 1 0というのか知らないけど、この396万円のことをお尋ねします。

それから、次が84ページ。84ページに12節で預貯金等照会システム導入業務委託料と書いてあります。預貯金照会システム、なんで預貯金をするのか、何かそこら辺が分からないので、これをお聞きします。

次に、87ページ12節で委託料で住基ネットのことが書いてあります。それで住基ネットがまだ存在しているのかなと思って、私はもうなくなったのかなと思っていたので、このことをお尋ねしたいと思います。

それから、次が148ページ、商工総務費のところをずっと見たら、プレミアム商品券のことが何にも上がってないんですけど、今年、このプレミアム商品券というのは発行しないのかなと思って、ちょっとお尋ねしたいと思います。

それから、次が154ページ、先ほど何か答えられたみたいですけど、3目のところで委託料で1,363万7,000円、何か新規事業というふうに最初の説明のときに聞いたんですけど、そこら辺がよく分からなかったの、ここを新規事業はどういうことを委託されるのかお尋ねしたいと思います。（「今、何ページですか」と言う者あり）154ページ、いいですか。次、行っていいですか。

次、155ページ。155ページの3目の16節と21節土地購入費300万円と補償金3,400万円、この説明を求めたいと思います。

○議長（林 英明君） それだけですかね。それで終わりですか。

○議員（6番 吉川紀代子君） 2回目終わり。

○議長（林 英明君） じゃあ全部言ってください。

○議員（6番 吉川紀代子君） 言っていいですか。

○議長（林 英明君） はい。

○議員（6番 吉川紀代子君） そしたら、次は156ページ、1目の12節委託料、都市計画総括図修正業務委託料、これも何か説明のときには新とおっしゃいました。この説明を求めます。

次に、157ページ。2目の16節と21節土地購入費と補償金のところを求めます。

それから、162ページ。1目の13節ですかね、賃借料9万9,000円と21節賠償金70万ですかね、これを。

次が163ページ、21節、これが補償金58万8,000円。

以上です。

○議長（林 英明君） 横山課長。

○総務課長（横山 由枝君） 78ページ、C I O補佐官業務委託料についてお答えしたいと思い

ます。

自治体DXを推進するためには、専門的な知識や経験を持つものが必要であります。自治体職員でその部分を補うことは非常に困難であり限界があります。そのため自治体に対し、専門的視点からサポートが可能な外部人材を確保するものでございます。デジタル技術の専門家としてシステムの標準化に関する助言や最新技術の導入に関し、自治体現場の課題に即したデジタル技術の導入の判断や助言を行ってもらうことを想定し、今回民間からの委託ということで、予算を計上させてもらっております。

○議長（林 英明君） 古野課長。

○税務課長（古野 博文君） 84ページ、預貯金照会システム導入委託料ですけど、これは今まで金融機関等に差押えとかをするときに、預貯金の照会をするときに文書でやり取りをしていました、ファイルで。それを今年度から電子データでのやり取りができるように、今回予算を組んで行っております。33万円ほど予算を組んでおります。

以上でございます。

○議長（林 英明君） 次は山本課長。

○住民課長（山本 博君） 87ページの住基ネットシステムについてでございます。

こちらについては、住民票の広域交付を行っております。そのためのネットシステムを構築している次第です。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） プレミアム商品券についてお答えいたします。

当初予算ではプレミアム商品券については計上しておりません。令和6年度では商品券事業をする予定ではございますが、この形状を組み立てるときに県の予算がまだ固まっていない、内容が定まっておりましたので、当初予算では入れておりません。県の内容が固まり次第、補正で上げることが想定しておるところでございます。

以上です。

○議長（林 英明君） 次は原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） それでは、154ページ、下段の3目の12節委託料を1,363万7,000円の内容でございます。

1,300万円につきましては、桂川郵便局から土居四つ角までの交差点の拡幅を昨年度から取り組んでおります。ここにかかる補償の調査費、測量設計委託料で500万円、また、桂川駅北口から王塚古墳までの拡幅測量設計補償調査で800万円を計上しております。

次のページで、土木システム保守委託料ということで、これはCAD設計、図面を引く図面のソフトのシステム委託料を63万7,000円です。

そして、155ページ、16節の土地購入費300万円につきましては、土居・瀬戸線、桂川郵便局から土居四つ角までの道路の用地の取得費、土地の購入費を300万円計上をさせていただいております。

その下の21節補償費につきましては、土居・瀬戸線の拡幅に伴いまして、家屋並びに築地塀等をちょっと扱う補償が発生しますので、こういった補償金、建物移転の補償金を3,400万円計上させていただいております。

そして、156ページの83万6,000円の都市計画総括図修正業務委託料につきましては、今年度、都市計画道路を3路線廃止しております。その関係で都市計画総括図という都市計画の道路を示す総括図の再作成が必要となっておりますので、この作成費に83万6,000を計上しております。

続きまして、157ページの16節土地購入費でございますけれども、こちらにつきましては、都市計画に伴うセットバック、4m幅がないところとかそういった都市計画道路的な取扱いの土地購入費の予算として50万円の計上を。そして補償費もその家屋の移転等が発生した場合、150万円の計上等が補償費で、これは通年で予算計上されております。

そして、162ページ、お願いいたします。162ページ、21節補償、賠償金ですね、補償のところ。これにつきましては、町営住宅の開け渡し請求等、滞納家賃で支払いをされない方に、最終的には明け渡し請求を行うんですけれども、こういった裁判費用に賠償金として70万円を計上しております。

そして163ページ、21節58万8,000円、補償金でございますけれども、こちらにつきましては、二反田団地B棟の新築に伴いまして、椿団地、貴船団地の移転をお願いしておるんですけれども、退居等になった際に代わりの方が入られた際に、この移転費、引っ越し代を計上させていただいております。29万4,000円掛け2件分という計上を行っております。

以上でございます。

○議長（林 英明君） よろしいですか。吉川君。

○議員（6番 吉川紀代子君） 162ページの13節の説明を受けてないように思います。

○議長（林 英明君） 原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） 162ページの13節の賃借料、こちらにつきましては、今、利用しているコピー機の賃借料ということでございます。（発言する者あり）すいません、印刷機の賃借料でございます。（「何の賃借料」と呼ぶ者あり）コピー機です。

○議長（林 英明君） よろしいですか。では、ほかに。柴田君。

○議員（3番 柴田 正彦君） 今の、例えば賃借料のところ（コピー機）と書いてくれば質問せんでいいことですよ。そういうのがいっぱいあったような気がします。ちょっとその辺は

考えてください。

私も幾つかありますので、担当のところごとに行かせてください。そっちのほうが効率がいいと思われま。

77ページ、ここの12節、下のほうです。新総合行政システム移行業務委託料、これが770万9,000円が4,954万4,000円と一気に跳ねています。6.4倍になった理由を教えてください。

それから、次の、その下ずらっと新規が並んでいます。次のページの上から3つまで。一番上は、先ほど吉川さんが聞かれたんですが、多分この辺はある程度大まかにこういうことですよと言えたら概略で結構ですので、これ改造ですので教えてください。以上、総務課には2点です。

○議長（林 英明君） それだけでいいですか、ほかには。全部。

○議員（3番 柴田 正彦君） いや、ちょっとしてからでいいです。

○議長（林 英明君） 横山課長。

○総務課長（横山 由枝君） まずは77ページ、新総合行政システム移行業務委託料につきまして、お答えしたいと思います。

令和5年度までは、事務の変化等に対応する改修費を計上しておりましたが、今回につきましては、総合行政システムを令和6年度中に稼働するための一括した必要経費となっております。データの抽出や移行の費用、稼働のための環境設定、システム運用テストなど全職員端末分の一括の必要の経費という形で、このような金額が計上されております。

2点目です。その下の積算システムサーバー入替業務委託料についてでございます。こちらは建設事業課で利用しております積算システムのサーバーについて設置から5年以上たち、サーバーの対応年数等も超過しているため、サーバー機器の一式セットアップ等の設定費用を一括して計上しております。

3点目、アナログ規制点検・見直し支援業務委託料につきましては、令和5年度6月に公布されておりましたデジタル規制改革推進の一括法により、デジタル化の妨げとなっておりますアナログ的手法、対面や書面などの文面が入った条例や規則等を令和6年度中に見直しするようになっております。この見直しに当たりましては、各関係省庁から担当課に直接通知が来ているものも含めまして、国が率先して見直しを進めております9,000の約条例と照らし合わせまして、法令違反にならないような改正等が求められております専門性が高い業務となりますので、業者委託をするものでございます。

自治体公式LINE構築業務委託料につきましては、地域情報発信のツールといたしまして、全国自治体で導入が進んでおります自治体公式LINEを導入するものでございます。

次のページのCIO補佐官は、先ほど吉川議員のときに御説明したとおりでございます。

その下のリモートアクセスサービス委託料につきましては、システムの標準化に伴い、行政が使用します選挙システムについてはオンライン環境での利用が絶対条件となるため、遠隔地からリモートアクセスが可能になるような必要機器の導入を行うものでございます。端末5台を予定しております。

その下の端末管理システム委託料につきましては、こちらもシステム標準化に伴い、自治体を利用してあります端末操作ログやプリント印刷のログなどの各種業務の徹底管理が義務づけされております。今現在、サーバーに標準搭載されております機能だけでは詳細なログの管理や端末管理が行うことができないために、今回そういう管理を行うソフトウェアを導入し各種構築を行うものでございます。

以上でございます。

○議長（林 英明君） 柴田議員、質問回数は幾つぐらいありますか。

○議員（3番 柴田 正彦君） あと3つの課にあります。

○議長（林 英明君） 3つの課。

○議員（3番 柴田 正彦君） はい。

○議長（林 英明君） 一応、決まりは、質問回数3回なんです。だから……。

○議員（3番 柴田 正彦君） は。

○議長（林 英明君） 3回なんです。質問回数が。

○議員（3番 柴田 正彦君） 1つの項目についてでしょ。これは一般質問でしょ。

○議長（林 英明君） 一般質問じゃなくて。

○議員（3番 柴田 正彦君） 一般質問じゃないね。予算に対する質疑でしょ。

○議長（林 英明君） 予算に対する質疑は、大体3回に決まっているんです。だから……。

○議員（3番 柴田 正彦君） 違う、課に行きます。次の質問です。

○議長（林 英明君） だから、全部で3回しかできないわけです。1つずつ言うたら。

○議員（3番 柴田 正彦君） だから、もう一遍にしよう方がいいってことですな。

○議長（林 英明君） だから、吉川さんにも言ってもらったわけです。だからもし変えるなら、この次から何かいろいろ皆さんと話し合っ……。

○議員（3番 柴田 正彦君） 分かりました。混乱したり、ページが空くと思ったもので。分かりました。私は、課ごとに行こうと思っていました。じゃあ言われることは分かります。ルールですから守ります。

先ほど言われたDX化に伴ってというのは、よく分かりました。やっぱり時代はそうになっている。あるものもそうしたい。

では、次のページの82ページ、これは町誌編さんです。一番上、435万円、町誌編さん支

援業務委託料で上がっております。この委託先、それから委託の実績、そこの会社教えてください。

続いて、産業振興課になります。139ページ、1節の報酬、農業委員会委員報酬ですが389万4,000円が461万4,000円と増えております。これは20%増なんですけど、これは例の議案7号の条例を一部改正しました。県からの補助が何とかとかそれがあって改正したものなのか、そうでなかったらなぜなのか。

次、144ページ、私も新規就農育成って非常に大事だろうと思っております。これが新規就農の上から2つ目、対策事業費補助金として675万円が1,350万円、2倍に増えています。増えてほしいんですが、本年度の実績と、そしてその倍増の裏づけ、さらに国、県の補助率をお願いします。

そしてそのすぐ下、水田農業担い手機械導入というところで、ロボット田植機をという話がありました。実際に希望されている方がいらっしゃるのかどうかを教えてください。あと、国、県の補助率。

145ページ、ここが一番下になりますが、防災重点農業用施設整備事業負担金とあります。これが420万円が800万円とほぼ倍増していますが、まず内容説明と倍増の理由をお願いいたします。

そして先ほど、吉川さんが言われましたが、プレミアム付き商品券です。これについては、県の対応を見てということ町政報告で言われていたんですが、飯塚市ではもう20%つけておりますが、多分うちのほうが遅く予算計上したと思うんですが、ある程度もう動きが合っているのかないのか、なんで飯塚市はこんなに早くやっているのか教えてください。それは分からないか、うちがなんで遅れているのか、町長、教えてください。

次です。建設事業課になります。152ページ、18節負担金、補助金及び交付金の下2つです。木造戸建住宅耐震改修促進事業補助金、ブロック塀等撤去費補助金、これはそれぞれ大きく減額されています。それぞれの本年度の実績、それから国、県の補助率を教えてください。なお、能登で地震が起きました。当然これ増えてくると思われます。つくったのは1月1日の前の日だったのかなとは思いますが、もし申請が増えたときはどうされるか教えてください。

154ページ、次のページです。これは少し先ほど答えが出ました。私も引っかかっていたんですが、2目、12委託料、この測量調査費委託料と一番最後にありますね。これが、1,800万円、去年は400万円のはずなんですけど、これが4.5倍に伸びています。これは何に使うのかと、そして僕はその一番下のこの新規のこの委託費も同じなんかなと思ったけど、これは分かりました。3目のほうは駅前の道路、もう一つが郵便局のところで言われたと思います。この調査費をアップ、大きくした理由を教えてください。

それから、155ページ、ここで引っかかっているのは、測量というのは道路橋梁維持費で、前の154ページにはほとんど増えているんだけど、この155ページの14節工事費のところは減っているんですよ、1,500万円。去年は4,100万円やったんですよ。これの矛盾があるなと思って、それぞれのことを聞かせてもらいたいと思っております。この道路橋梁新設改良費については、去年は4,100万円なんです。その前はこれ1億円超えとったんじゃないかな。

では、最後になります。159ページです。159ページ、一番上のところなんですけど、ここにはないのが、昨年まで入っていて皆減されているのが、桂川駅前駐輪場巡回業務委託料なんです。91万8,000円が去年は上がっていましたがありません。皆減の理由と、駐車場では巡回業務は誰がするのか教えてください。

以上です。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） では、まず、私のほうから82ページの町誌編さん支援業務委託料の委託先ということでございますが、こちらは予算可決後、4月にプロポーザル方式での入札を予定しておりますので、その際に決定してくるものでございます。

○議長（林 英明君） 小金丸課長。

○産業振興課長（小金丸卓哉君） 産業振興課の分をお答えいたします。

まず、139ページ、6款1項1目農業委員会費の1節報酬の部分。これは議員御指摘のとおり議案7号の条例の報酬の上乗せ分ということで、農業委員会委員報酬が12名分、その下の農地利用最適化推進委員報酬4名分、合わせて16名分ということになります。

続いて、144ページ、6款1項4目の18節新規就農者育成総合対策事業費補助金、まず、令和5年度、本年度ですね。令和5年度の実績といたしまして、これ2つ事業がありまして、経営開始資金というのが2名分で300万円、それから経営発展支援事業といたしまして、ビニールハウスとか建てるときの設備費の援助、これについてが1名ということで375万円。合わせて675万円が令和5年度の実績ということになります。令和6年度につきましては、現在、相談を受けている方も合わせますと3名いらっしゃる。プラス1名、新たに出るかもしれないということで4名分で最初の300万円に対して、これ4名分なので600万円。2つ目のハウスとかの施設の援助、これも1名プラス1名の2名分を計上しまして750万円。これを合わせて令和6年度は1,350万円という数字を計上させていただいております。

続いてその下、水田農業担い手機械導入支援事業補助金ということで、これは議員の御指摘、おっしゃったとおりロボット田植機の購入費なんですけど、1名、昨年、今年度から希望がありましたので、来年度の事業として上げているところでございます。

補助率につきましては、ロボット田植機の補助率から先に言います。県の補助率が3分の1、

町の補助率が6分の1、そうすると個人の負担は2分の1ということになります。

ちょっと1つ戻りまして、新規就農の補助率をお伝えするのを忘れていました。これ県の補助率が10分の10でございます。

続いて、145ページ、6款1項6目の農地費の18節、防災重点農業用施設整備事業負担金ということで、令和6年度が800万円計上しております。昨年度につきましては、これは県が行っております七浦溜池の町の負担金の部分になります。令和5年度は七浦溜池の改修の実施設計を行っております。その事業費が2,100万円、その町の負担が20%ということで、420万円が令和5年度、今年度の800万円につきましては、令和6年度は工事用の仮設道路の設置が令和6年度の予定となっております。この事業費が4,000万円、町の負担がその20%で800万円ということで計上させていただいております。

以上です。

○議長（林 英明君） 次は井上町長。

○町長（井上 利一君） プレミアム付き商品券のことで御質問がございました。

飯塚市のほうが挙げているということですが、それは飯塚市のほうの事情だと思っています。いわゆる県の補助金の内容は、分かり次第、私どもも商工会と協議をして行っていくという姿勢です。特に今回、気にしておりましたのは、電子利用券が、県がその電子利用券の条件を引き上げてくるんじゃないかということが考えられます。そういうことも含めまして、県から正式に通知があれば実施する方向で取り組んでいきたいと思っています。

○議長（林 英明君） 次は原中課長。

○建設事業課長（原中 康君） それでは、152ページ、8款1項1目18節、木造戸建住宅耐震改修費90万円の計上についてです。昨年度150万円から90万円に減額しているということでございます。この理由につきましては、もうここ3年間で1件もこういった申請が出ていないということで、5件分から3件分に減らしたと。1件30万円を限度として補助率25%、県の補助金のみ補助対応でございます。そういった状況で減額をしておるところでございます。

それと、152ページ、同じくその下のブロック屏等撤去補助金についてですが、こちらも令和5年度はゼロ件ということで、ちなみに令和4年度は52万1,000円、3年度106万2,000円とあったんですけども、だんだんこういう通学路とか、特定の歩行者に危険な場所しか認められないということで、改修が進んできた状況だと思います。この16万円の5件分で80万円の計上ということで、昨年度に比べて半減という計上をしております。補助率につきましては、国2分の1、県4分の1、市町村で4分の1という補助割合になっております。それで、すいません、全体的には撤去費の3分の2を補助するということです。対象者につきましては全額の3分の2を補助して、限度額が16万円というものでございます。

続きまして、154ページ、8款2項2目12節の測量調査委託料につきましては、昨年同様、測量委託料400万円計上しております。ちょっと先ほど大塚議員の質問の中でも、この中に観光マップの作成費用これを計上させていただいております。残りの1,400万円ですけれども、この1,400万円については、平成26年度の道路法施工規則の一部を改正する省令によって2m以上の橋梁やトンネルに関しては、5年に一度、近接目視による全数点検を行って健全性を点検する義務が課せられております。それで、この2件につきましては、国道200号線沿いのデルソルパチンコ屋さんの裏に跨線橋、上に線路をまた越している橋があります。これと桂川駅自由通路、この2か所を5年に一度しっかり点検しなければならないと。また、この費用につきましては、線路敷地内ということで、JRのほうに委託するという委託料になっておりまして、こういった計上費が1,400万円かかるという見込みでございます。これを追加して1,800万円の計上を行っております。

続きまして、154ページの8款2項3目12節の900万円を1,300万円ということで、これ吉川議員、大塚議員の質問の中にあつた豆田・瀬戸線の測量設計補償調査費で800万円、そして土居・瀬戸線の設計と補償調査で500万円の計上でございます。

155ページの14節工事請負費です。4,100万円が今年度計上1,500万円になっているということで、この1,500万円の計上につきましては、土居・瀬戸線の昨年からの測量設計を出しているんですけども、この工事60m区間を1,500万円をかけて工事をするという内容でございます。昨年につきましては、新町・狩野線、二反田団地に抜ける道路を3年、4年がかかりで取り組んでまいりました。もう工事だけの、昨年はその分の計上ということで、測量に対して工事費が4,100万円と高かったということで、今年は逆に測量のほうがかちょっとウエートが重いということで、工事費はこの1,500万円のみ道路改良費の計上になっております。

最後に、159ページ、8款3項4目12節、桂川駅前駐輪場巡回業務委託料39万6,000円の皆減については、ちょっと委託業者さんが辞められたっていうところもあったんですけども、その後、我々職員のほうで自転車の管理等をパトロールして、南側に駐輪場が新たに令和3年からできたことで、この自転車の密度が大分緩くなったということで、マナーの改善が見られるようになったことに併せて、できる限り直営で管理するように、ちょっと検討してみたというところでございます。

以上でございます。

○議長（林 英明君） 柴田議員、よろしいですか。柴田議員。

○議員（3番 柴田 正彦君） 追加です。まず1点、企画財政課ですが、まだ決まってない割には、435万6,000円と具体的ですが、この辺の裏づけが一つほしいです。

続けて、電子利用券がやっぱりこれ今後問題になるだろうと思います。それなりの手だてをや

っぱりもうちょっと打たないとなあとと思います。ここは考えていかなければならないと思います。

最後のところですが、駐輪場の巡回なんですけど、職員がしている、この忙しい中でなんで職員がせなやろかってのは正直なところあります。辞めたら私はしますので、駅を造っちゃいましたのでね、辞めた議員と辞めた職員がしたほうがいいような気がします。冗談本当に思っています。そのときはよろしくお願いします。

○議長（林 英明君） 小平課長。

○企画財政課長（小平 知仁君） 予算計上につきましては、今準備の支援を得てる業者そちらから御見積りを取りまして、それを精査して計上したものでございます。

○議員（3番 柴田 正彦君） 分かりました。

○議長（林 英明君） よろしいですか。

ここで暫時休憩します。再開は3時22分。

午後3時12分休憩

午後3時21分再開

○議長（林 英明君） 会議を再開します。

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） これで質疑を終わります。

議案第12号については、会期中、総務経済建設委員会、文教厚生委員会に付託します。

日程第4. 議案第13号

○議長（林 英明君） 議案第13号令和6年度桂川町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） 質疑なしと認めます。

議案第13号については、会期中、総務経済建設委員会に付託いたします。

日程第5. 議案第14号

○議長（林 英明君） 議案第14号令和6年度桂川町土地取得特別会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） 質疑なしと認めます。

議案第14号については、会期中、総務経済建設委員会に付託いたします。

日程第6. 議案第15号

○議長（林 英明君） 議案第15号令和6年度桂川町国民健康保険特別会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） 質疑なしと認めます。

議案第15号については、会期中、文教厚生委員会に付託いたします。

日程第7. 議案第16号

○議長（林 英明君） 議案第16号令和6年度桂川町後期高齢者医療特別会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） 質疑なしと認めます。

議案第16号については、会期中、文教厚生委員会に付託いたします。

日程第8. 議案第17号

○議長（林 英明君） 議案第17号令和6年度桂川町水道事業会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。大塚君。

○議員（5番 大塚 和佳君） ちょっと詳しくは分からないとですけど、26ページ、支出のところで、前年度と本年度で2,100万円ぐらい、約2,000万円ほど増えていますので、どのようなのが増えたかというのをちょっとお知らせいただければと思います。

○議長（林 英明君） 秦課長。

○水道課長（秦 俊一君） 2,000万円、それは支出の1款1項1目ですかね、原水及び浄水費で2,183万円、これが増えている。（発言する者あり）全体的ですね、ここの2,000万円の主な要因は、19節工事請負費、土師・豆田浄水場緩速ろ過池更生工事というのが、新年度新しく計上しております。こちらが2,968万9,000円ということになっております。こち

らは、土師・豆田浄水場にある緩速ろ過池っていうのがございます。こちらは砂とか砂利を通して、字のごとくゆっくり時間をかけて水をろ過する装置でございます。今回このろ過池の砂や砂利、その土師にある資材を一斉に取り替える工事になります。こちらが、土師に関しては1,489万4,000円、豆田浄水場に関しては1,479万5,000円というふうに計上しておりますので、この2つでちょっとトータルして増えているということでございます。

○議長（林 英明君） よろしいですか。大塚君。

○議員（5番 大塚 和佳君） 配水池を何か計画されているっていうふうに、私一般質問で上げていましたので、それはどこら辺に予算を上げてありますでしょうか。

○議長（林 英明君） 秦課長。

○水道課長（秦 俊一君） 配水池に関しましては、予算書の32ページになるかと思います。

2目建設改良費委託費352万があるかと思います。こちらに配水池基礎調査業務委託というふうに計上をしております。こちらで配水池の基礎調査を行うということで予算を計上しております。

○議長（林 英明君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（林 英明君） これで質疑を終わります。

議案第17号については、会期中、総務経済建設委員会に付託いたします。

○議長（林 英明君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会します。お疲れさまでした。

午後3時26分散会